

定点把握疾病（五類感染症）の状況

※令和5（2023）年は52週、令和6（2024）年は52週での比較です。

定点当たり報告数の比較について

報告数を比較する際には、結核・感染症発生動向調査情報の月報における解析情報の表現と同様に、その比の値により、以下のような表現で記載します。

報告数の比の値

1.50倍以上	大幅に高い水準
1.25～1.49倍	かなり高い水準
1.10～1.24倍	やや高い水準
0.90～1.09倍	ほぼ同様の水準
0.75～0.89倍	やや低い水準
0.50～0.74倍	かなり低い水準
0.49倍以下	大幅に低い水準

警報・注意報レベルの基準値

疾病名	警報		注意報
	開始基準	終息基準	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

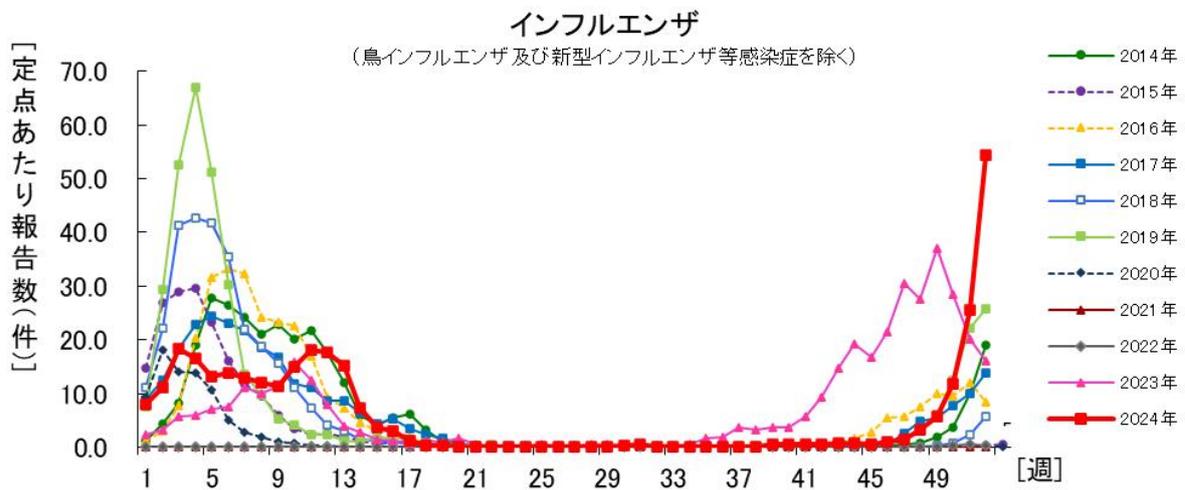
1. インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

令和6（2024）年の総報告数は 23,422 件でした。年間の定点あたり報告数は 308.23 であり、令和5（2023）年（384.62）と比較すると 0.80 倍とやや減少しました。全国（387.63）と比較すると、0.80 倍とやや低い水準でした。

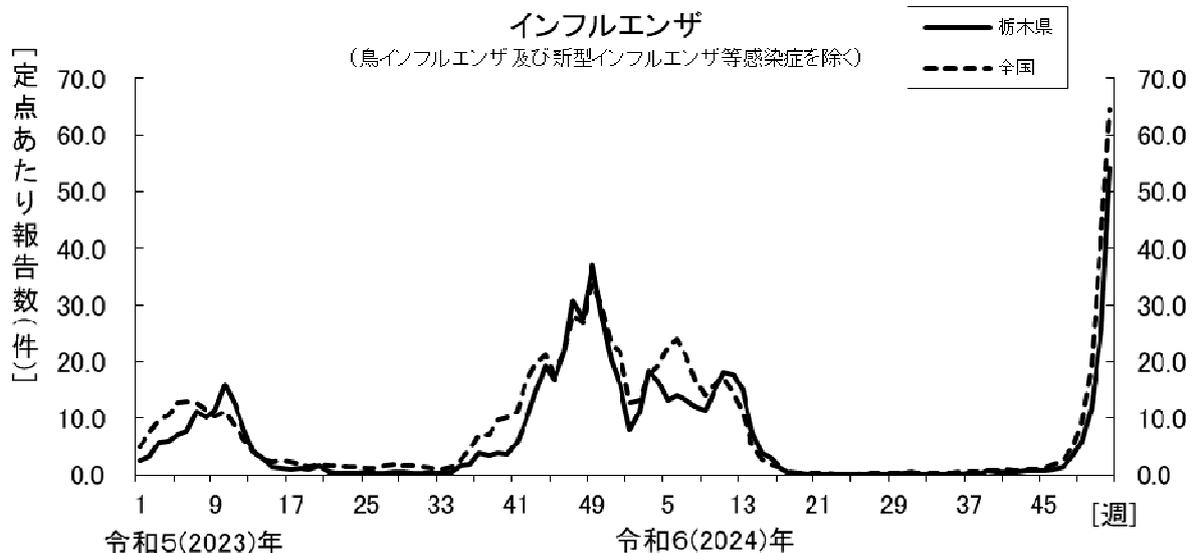
23-24 シーズンでは、令和5年第43週（10/23～10/29）に注意報開始基準、第47週（11/20～11/26）に警報開始基準を超え、第49週（12/4～12/10）に報告数が最大（定点あたり報告数 36.99）となりました。24-25 シーズンでは、令和6年第50週（12/9～12/15）に注意報開始基準、第52週（12/23～12/29）に警報開始基準を超え、同時に報告数が最大（定点あたり報告数 54.37）となりました。

年齢階級別では、0～9歳が 44.2%、10歳代が 30.6%を占めました。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



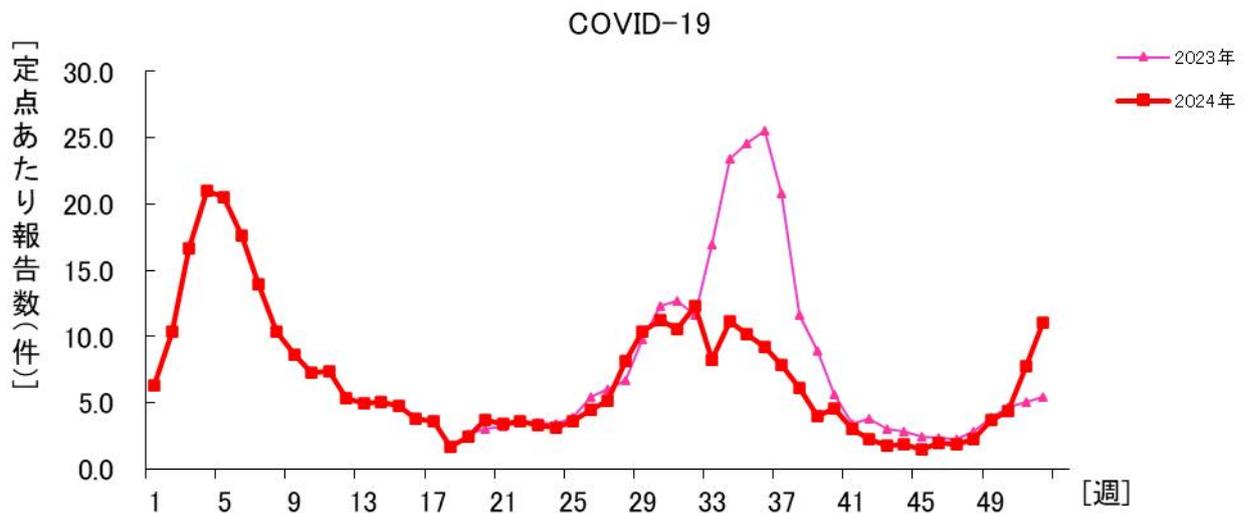
2. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

令和6（2024）年の総報告数は27,342件でした。

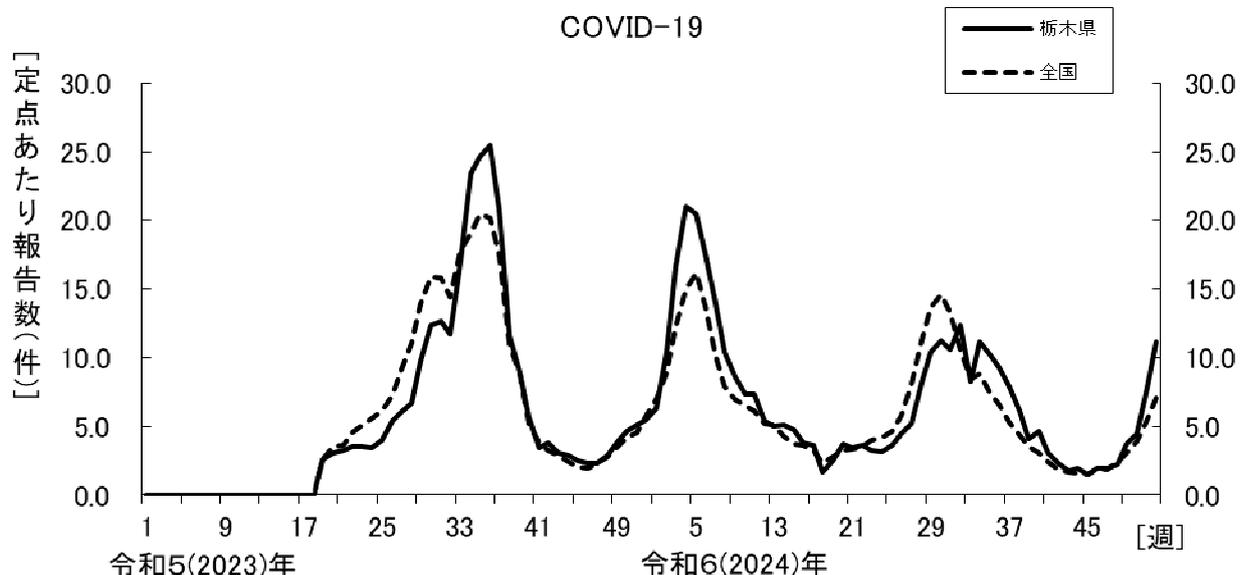
年間を通して発生が見られ、第4週（1/22～1/28）の報告数が最大（定点あたり報告数21.01）となりました。年齢階級別では、幅広い年代から満遍なく報告がありましたが、特に10歳代以下の報告が多く、0～9歳が17.3%、10歳代が14.5%を占めました。

年間の定点あたり報告数は、栃木県360.60、全国323.11で、全国と比較して1.12倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



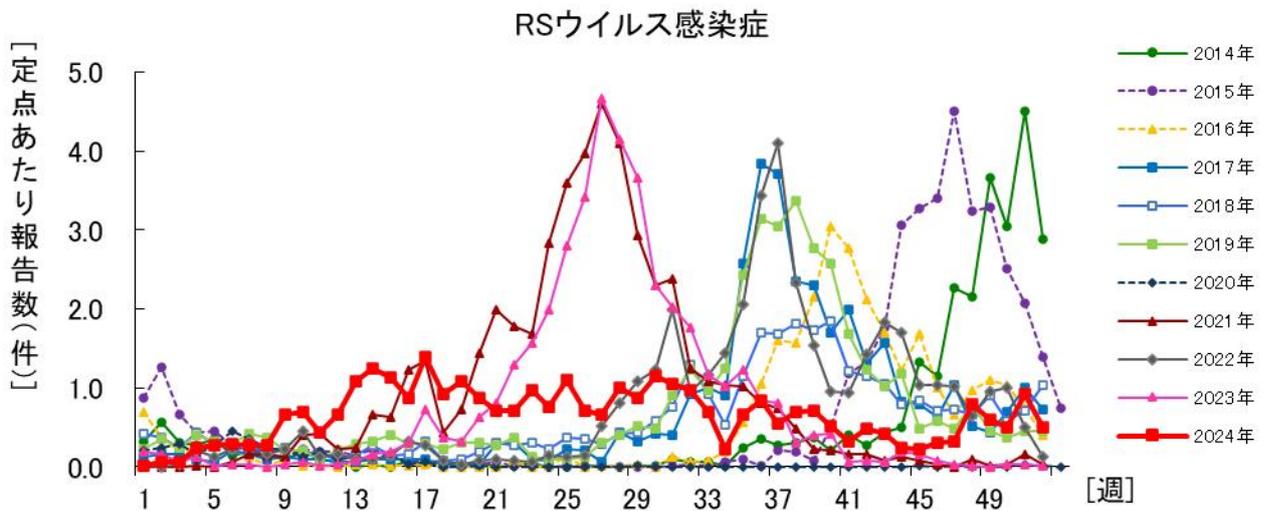
3. R S ウイルス感染症

令和6(2024)年の総報告数は1,619件でした。年間の定点あたり報告数は33.90であり、令和5(2023)年(41.14)と比較すると0.82倍とやや減少しました。全国(39.22)と比較すると、0.86倍とやや低い水準でした。

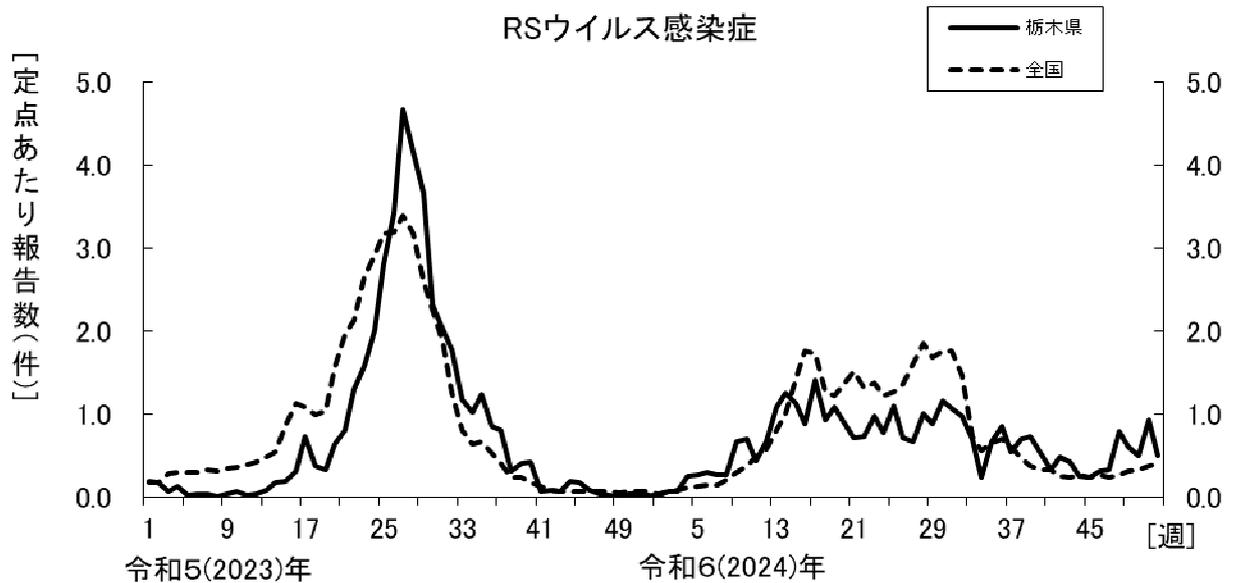
年間を通して発生が見られ、第17週(4/22~4/28)の報告数が最大(定点あたり報告数1.40)となりました。

年齢階級別では、0~1歳が62.4%、2~4歳が29.9%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

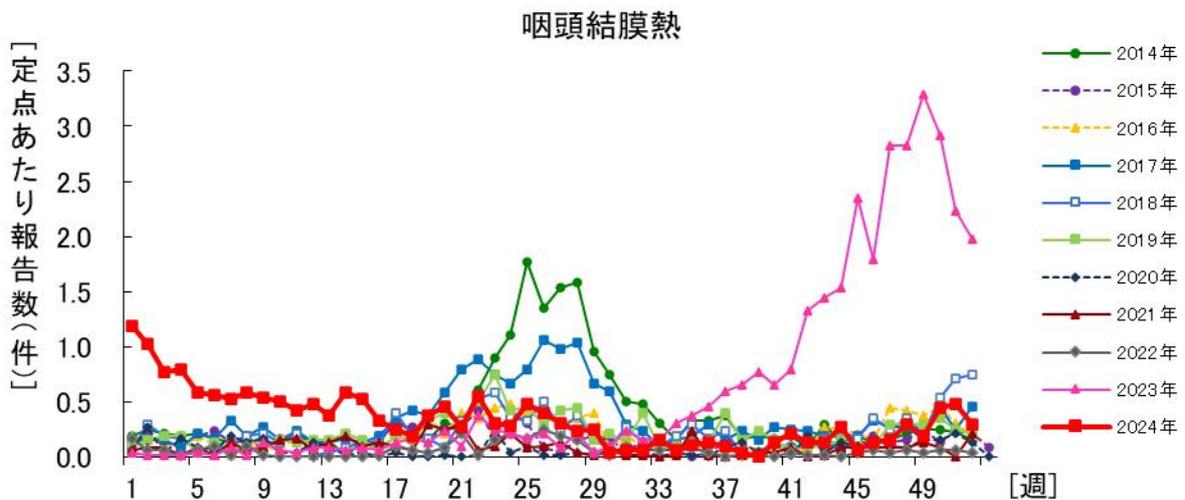


4. 咽頭結膜熱

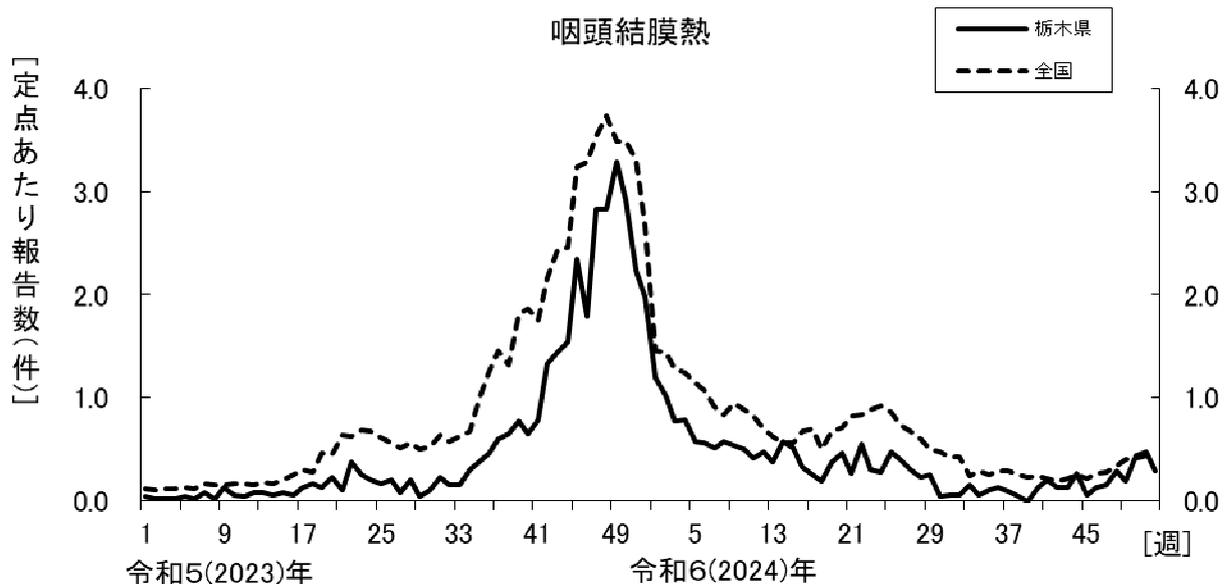
令和6(2024)年の総報告数は849件でした。年間の定点あたり報告数は17.75であり、令和5(2023)年(32.93)と比較すると0.54倍とかなり減少しました。全国(31.76)と比較すると、0.56倍とかなり低い水準でした。

第1週(1/1~1/7)の報告数が最大(定点あたり報告数1.19)となりました。年齢階級別では、0~4歳が62.7%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



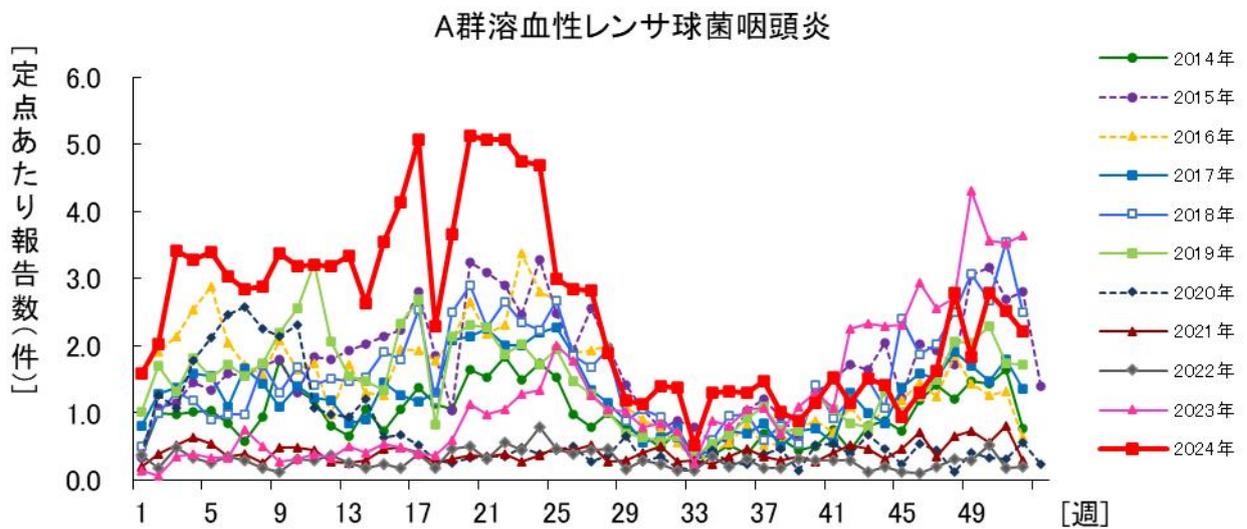
5. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

令和6(2024)年の総報告数は6,269件でした。年間の定点あたり報告数は131.08であり、令和5(2023)年(63.49)と比較すると2.06倍と大幅に増加しました。全国(158.39)と比較すると、0.83倍とやや低い水準でした。

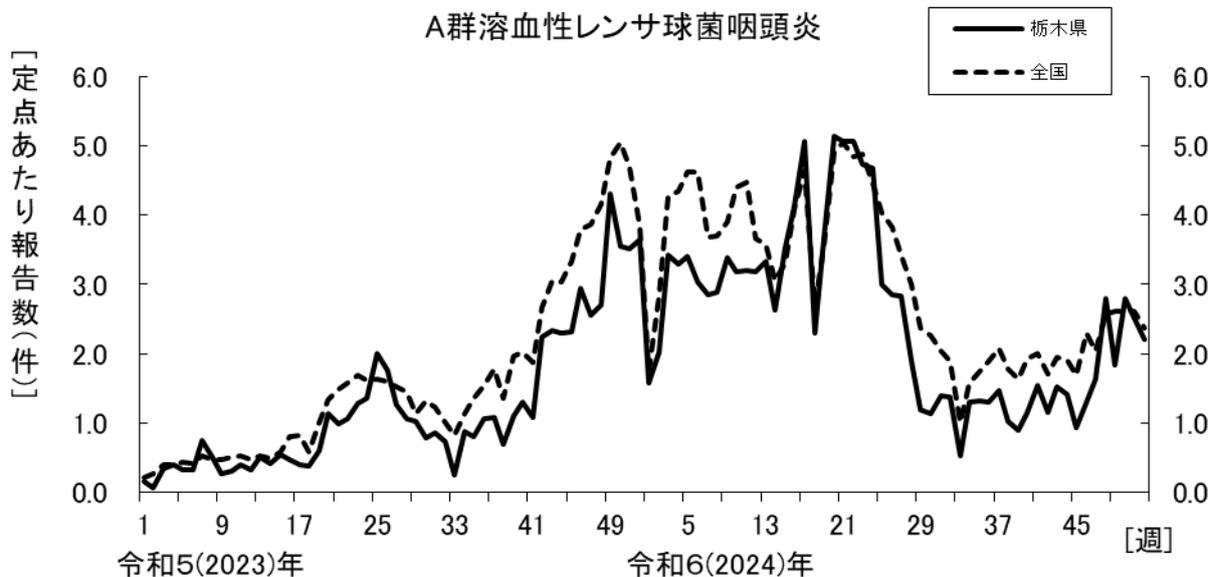
年間を通して発生が見られ、第20週(5/13~5/19)の報告数が最大(定点あたり報告数5.13)となりました。

年齢階級別では、0~4歳が27.1%、5~9歳が51.5%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



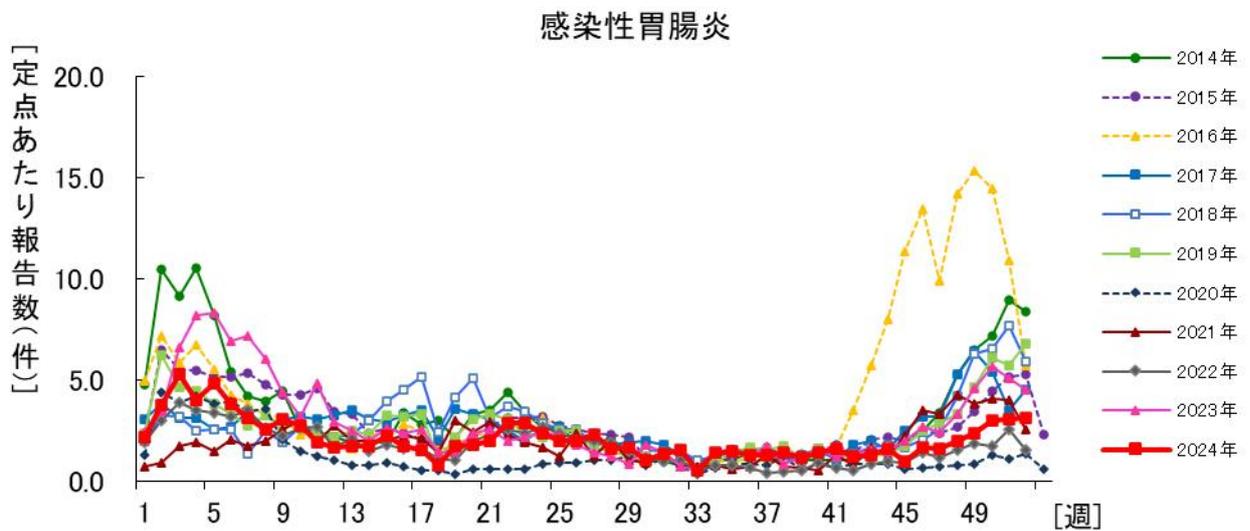
6. 感染性胃腸炎

令和6(2024)年の総報告数は5,217件でした。年間の定点あたり報告数は109.01であり、令和5(2023)年(147.88)と比較すると0.74倍とかなり減少しました。全国(209.97)と比較すると、0.52倍とかなり低い水準でした。

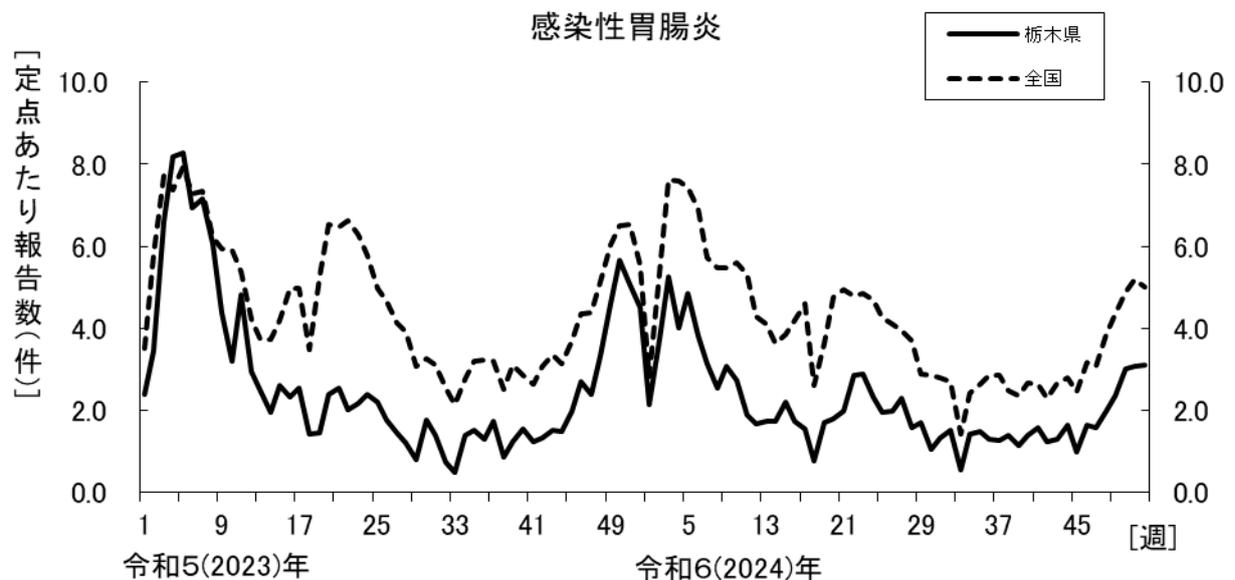
年間を通して発生が見られ、第3週(1/15~1/21)の報告数が最大(定点あたり報告数5.27)となりました。

年齢階級別では、0~4歳が46.6%、5~9歳が34.8%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



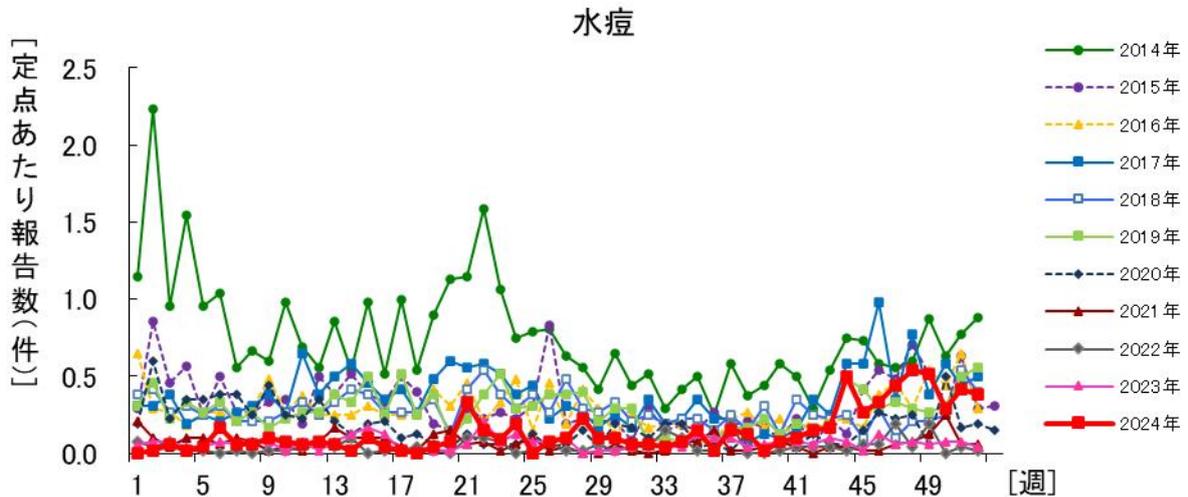
7. 水痘

令和6(2024)年の総報告数は356件でした。年間の定点あたり報告数は7.38であり、令和5(2023)年(3.63)と比較すると2.03倍と大幅に増加しました。全国(9.05)と比較すると、0.82倍とやや低い水準でした。

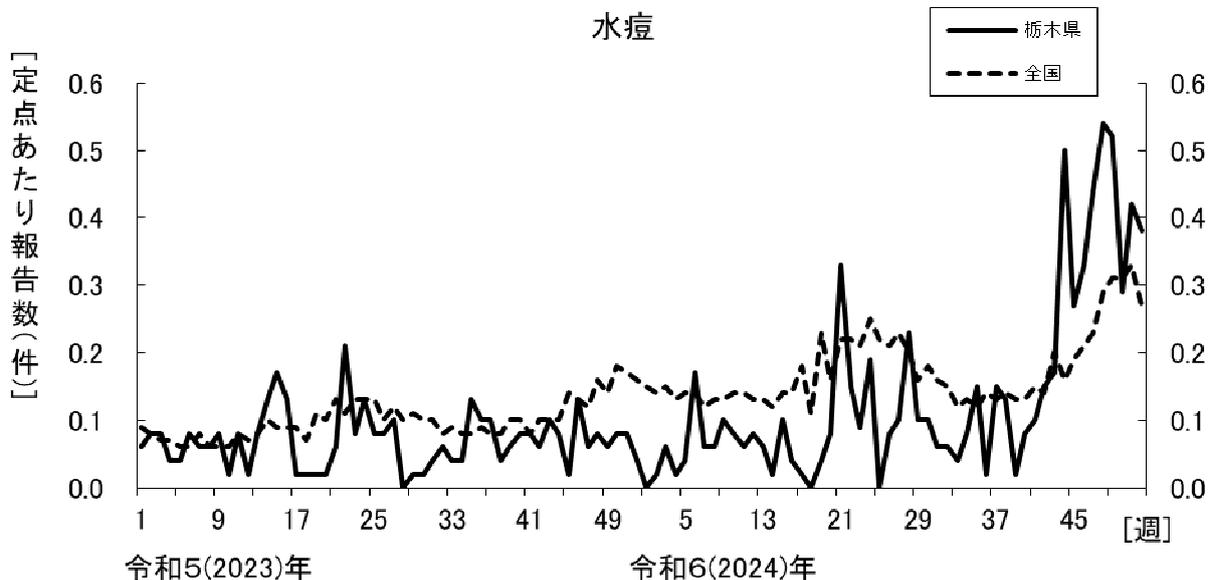
年間を通して発生が見られ、第48週(11/25~12/1)の報告数が最大(定点あたり報告数0.54)となりました。

年齢階級別では、0~4歳が21.9%、5~9歳が48.6%、10歳代が28.1%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



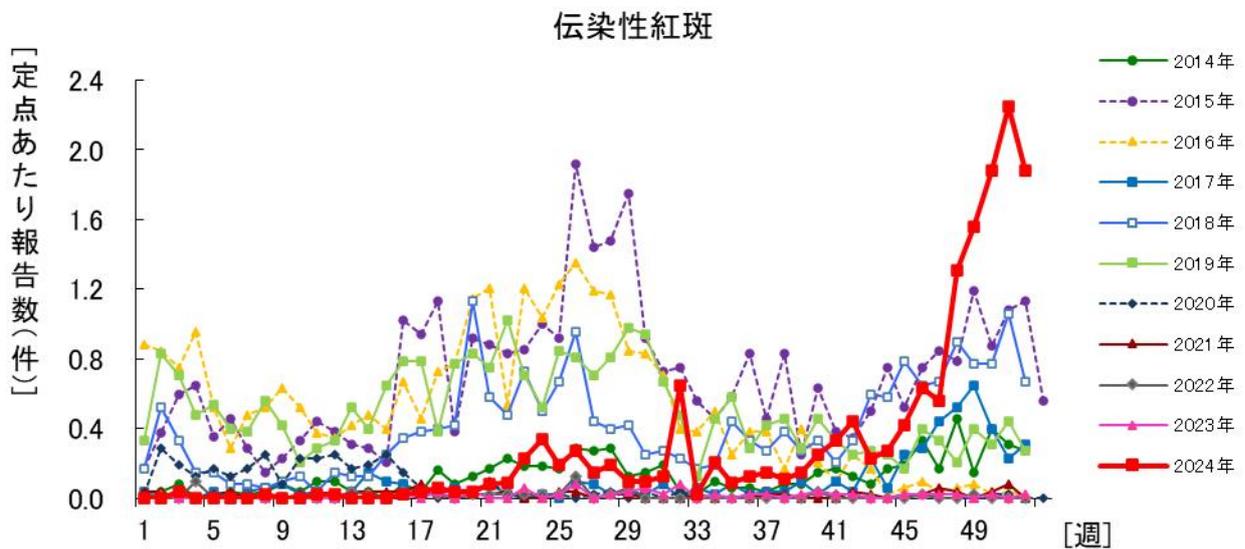
9. 伝染性紅斑

令和6(2024)年の総報告数は751件でした。年間の定点あたり報告数は15.69であり、令和5(2023)年(0.78)と比較すると20.12倍と大幅に増加しました。全国(10.28)と比較すると、1.53倍と大幅に高い水準でした。

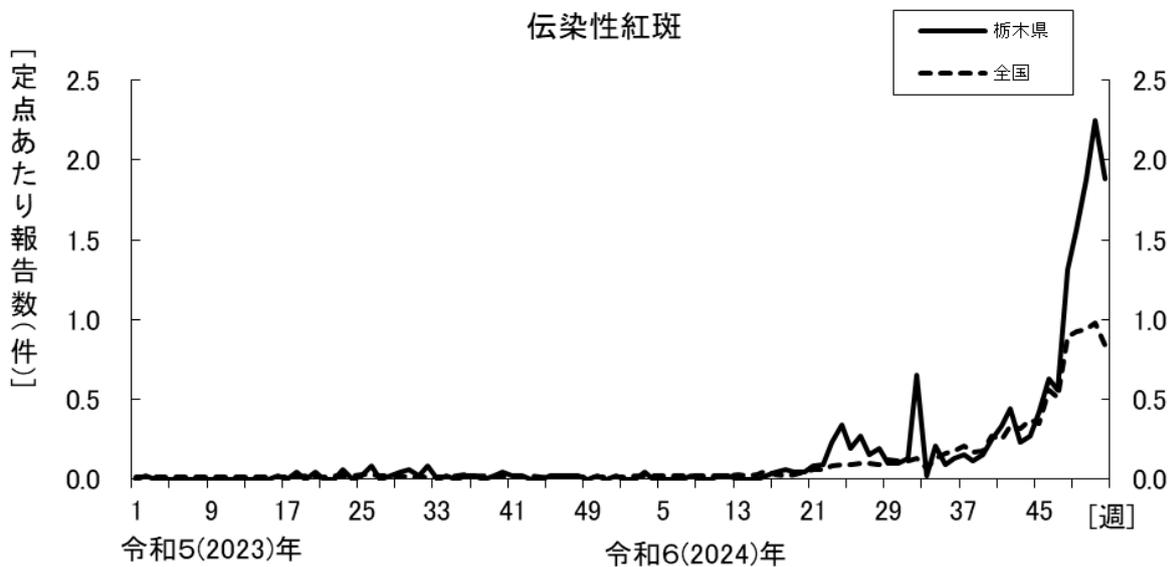
4月頃から継続して報告が見られるようになり、第51週(12/16~12/22)をピーク(定点あたり報告数2.25)とする報告数の増加が見られました。

年齢階級別では、0~4歳が36.9%、5~9歳が57.9%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



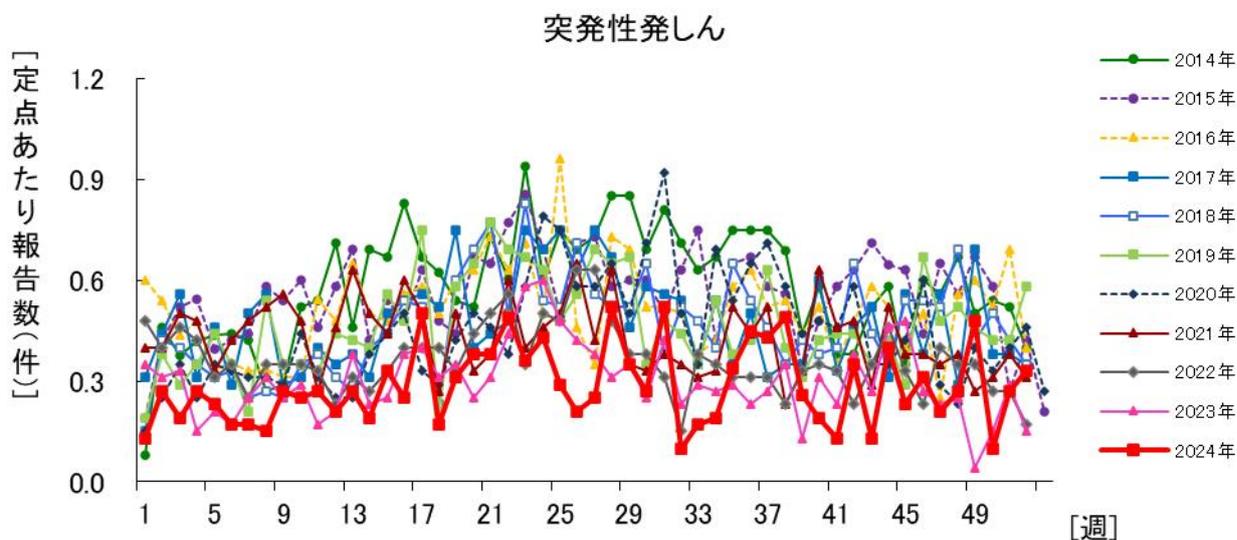
10. 突発性発しん

令和6(2024)年の総報告数は709件でした。年間の定点あたり報告数は14.88であり、令和5(2023)年(15.66)と比較すると0.95倍とほぼ同様でした。全国(13.18)と比較すると、1.13倍とやや高い水準でした。

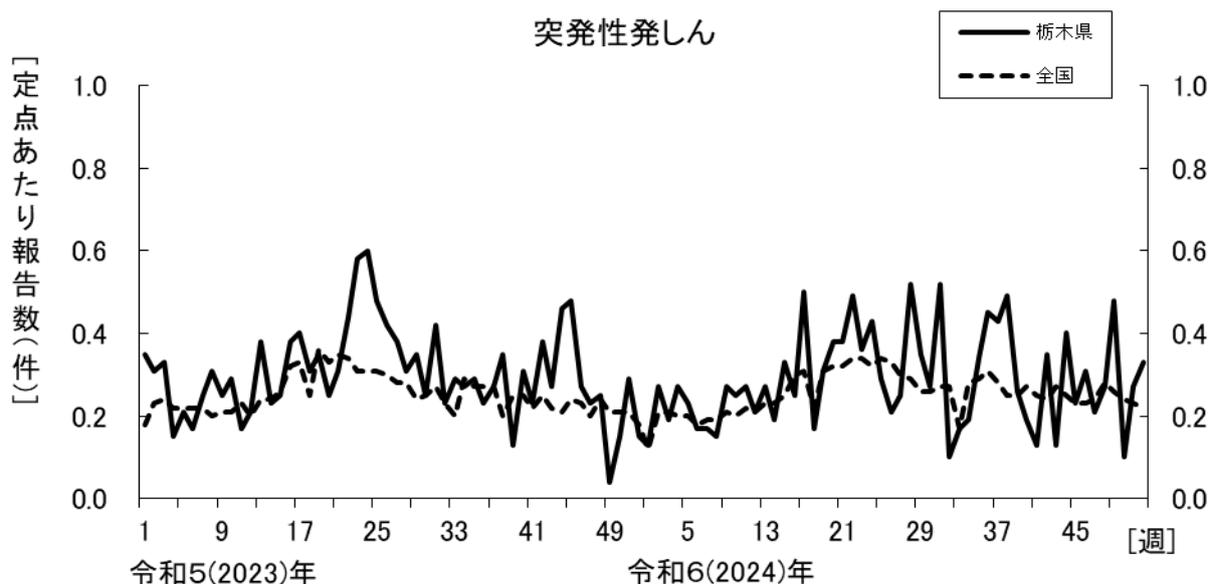
年間を通じて報告がありました。

年齢階級別では、1歳以下が79.7%を占めました。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

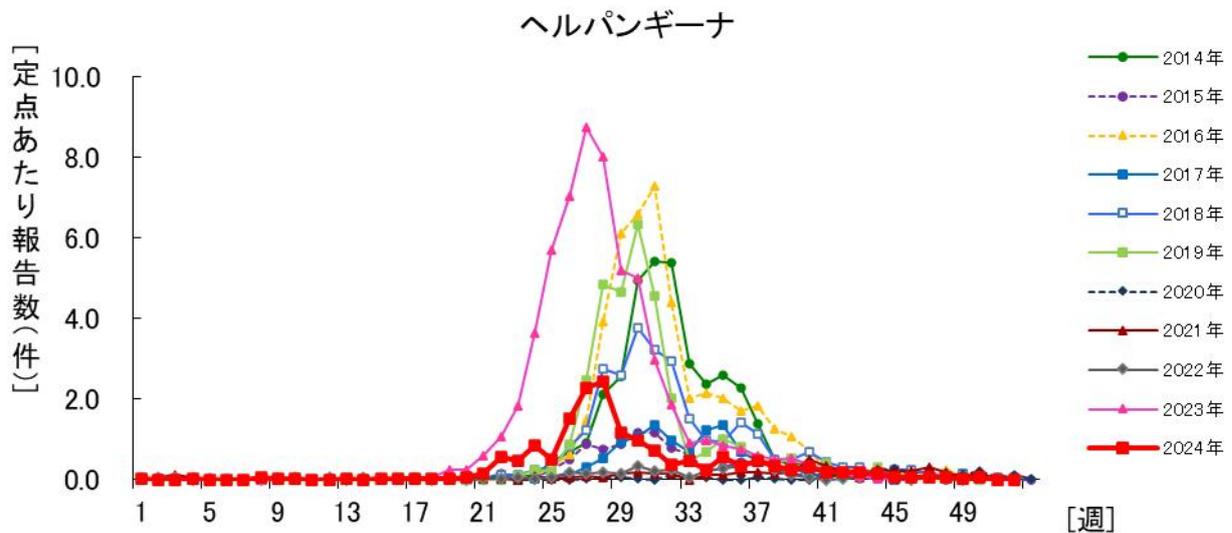


11. ヘルパンギーナ

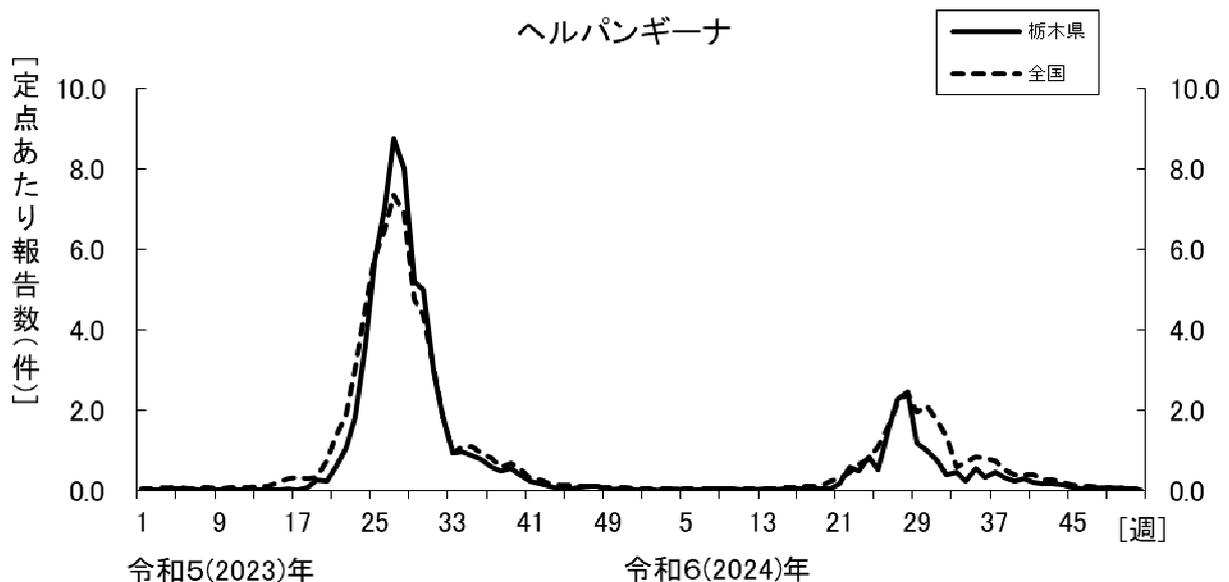
令和6(2024)年の総報告数は766件でした。年間の定点あたり報告数は16.06であり、令和5(2023)年(58.34)と比較すると0.28倍と大幅に減少しました。全国(23.89)と比較すると、0.67倍とかなり低い水準でした。

第28週(7/8~7/14)の報告数が最大(定点あたり報告数2.44)となりました。年齢階級別では、0~4歳が76.9%、5~9歳が21.7%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



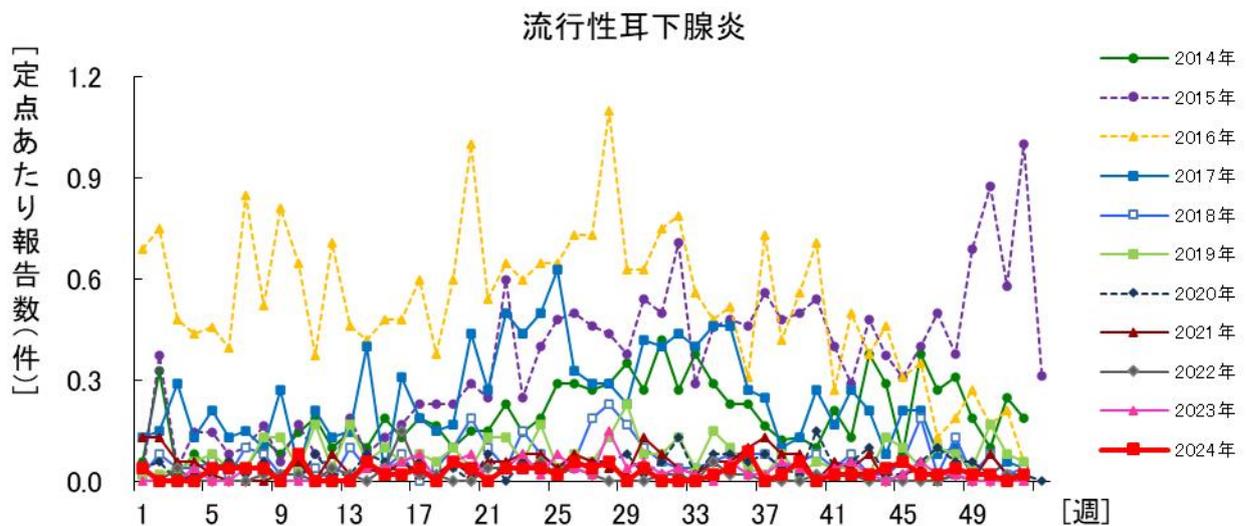
12. 流行性耳下腺炎

令和6(2024)年の総報告数は69件でした。年間の定点あたり報告数は1.39であり、令和5(2023)年(1.53)と比較すると0.91倍とほぼ同様でした。全国(2.05)と比較すると、0.68倍とかなり低い水準でした。

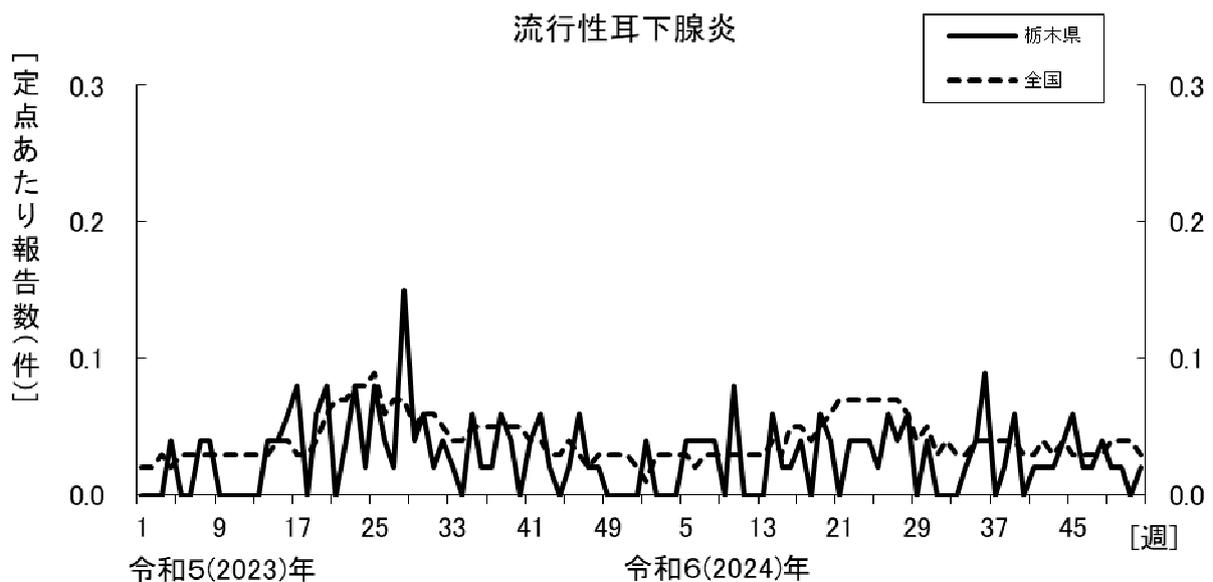
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。

年齢階級別では、5～9歳が53.6%を占めました。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

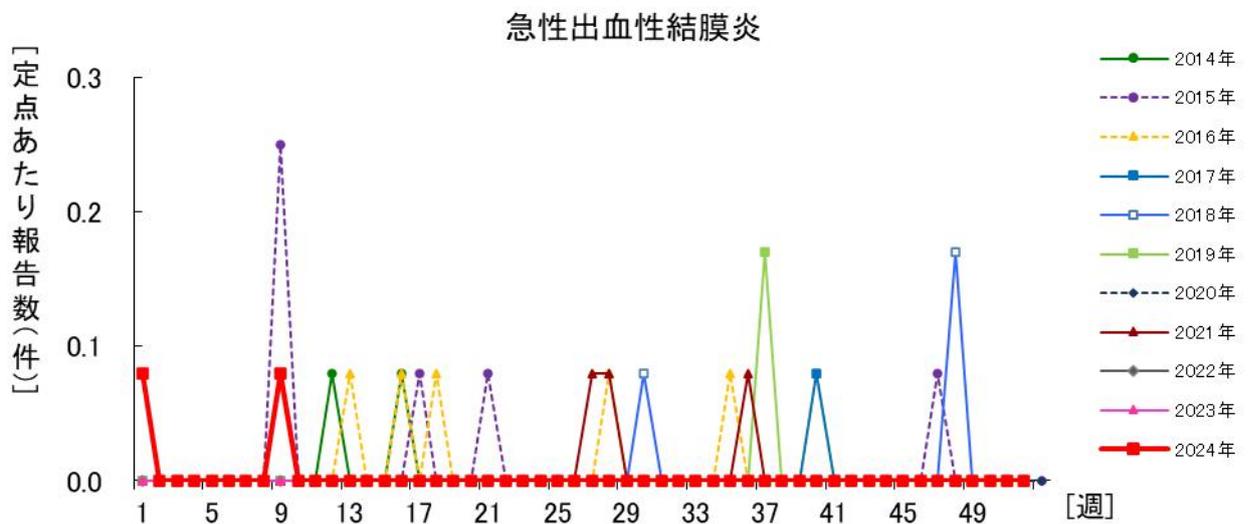


13. 急性出血性結膜炎

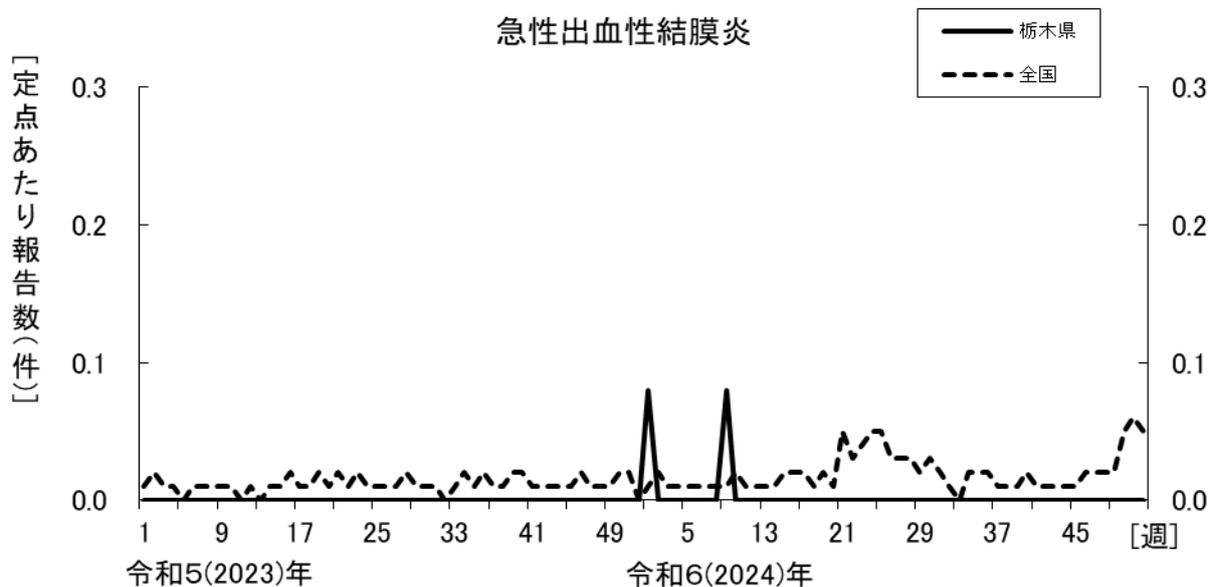
令和6(2024)年の総報告数は2件でした(令和5(2023)年は0件)。

年間の定点あたり報告数は、栃木県0.16、全国1.04でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

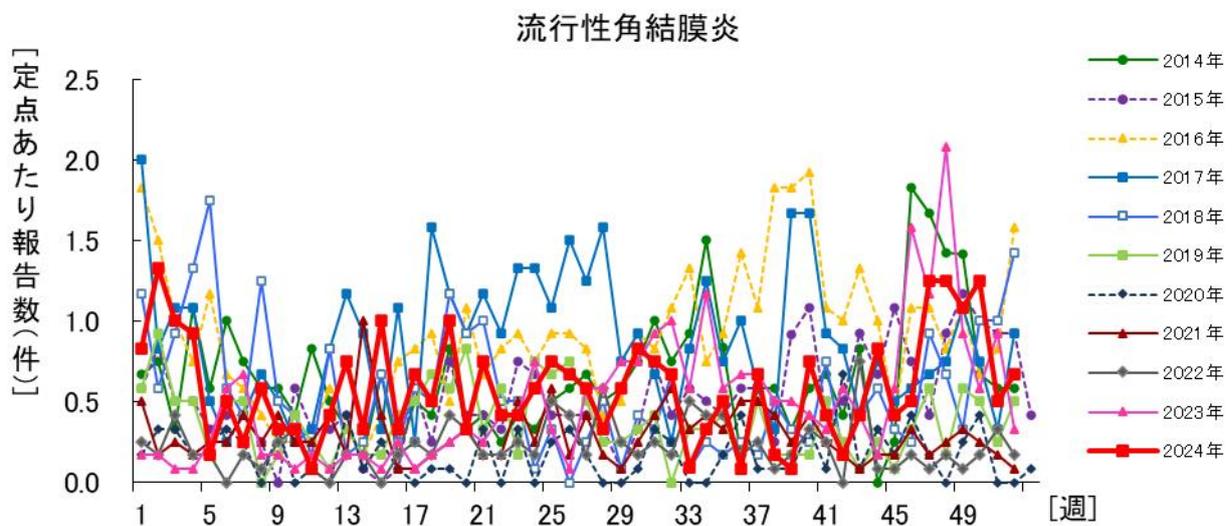


14. 流行性角結膜炎

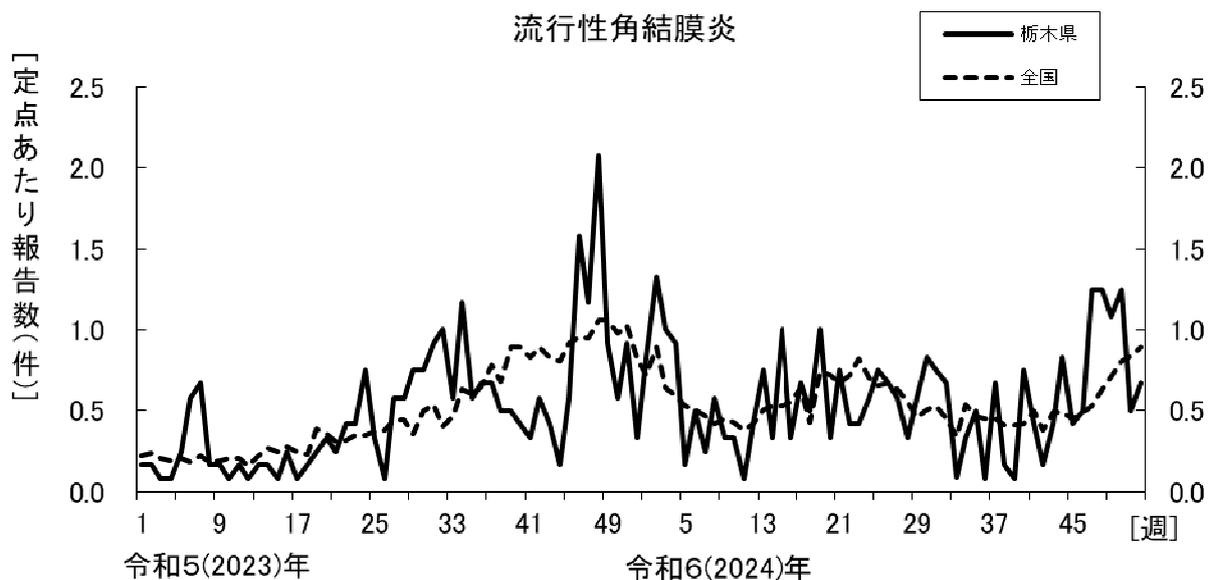
令和6(2024)年の総報告数は365件で、令和5(2023)年(309件)と比較すると1.18倍とやや増加しました。

年間の定点あたり報告数は、栃木県30.41、全国29.25で、全国と比較して1.04倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

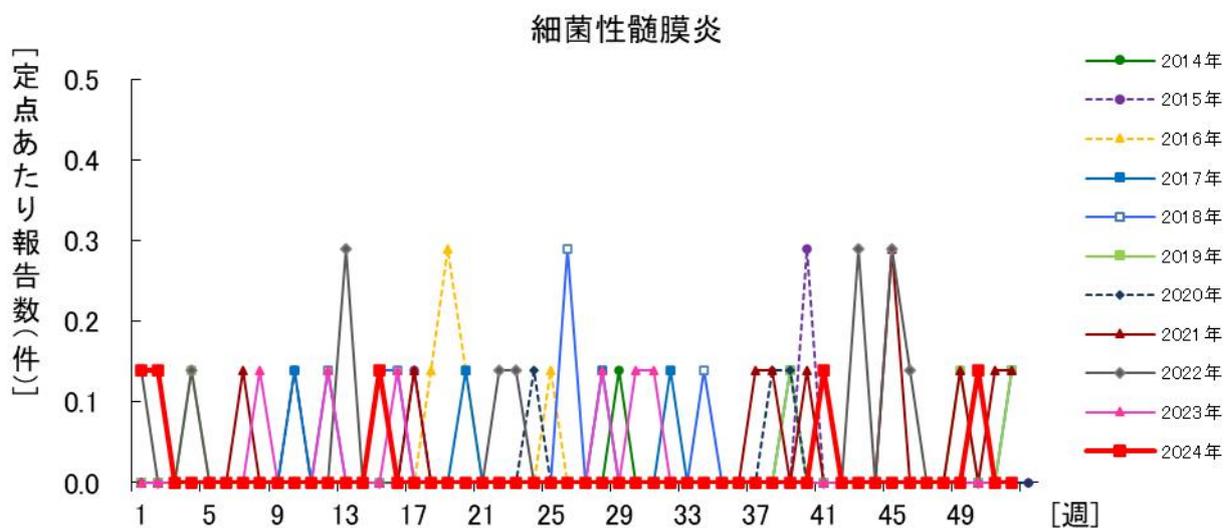


15. 細菌性髄膜炎

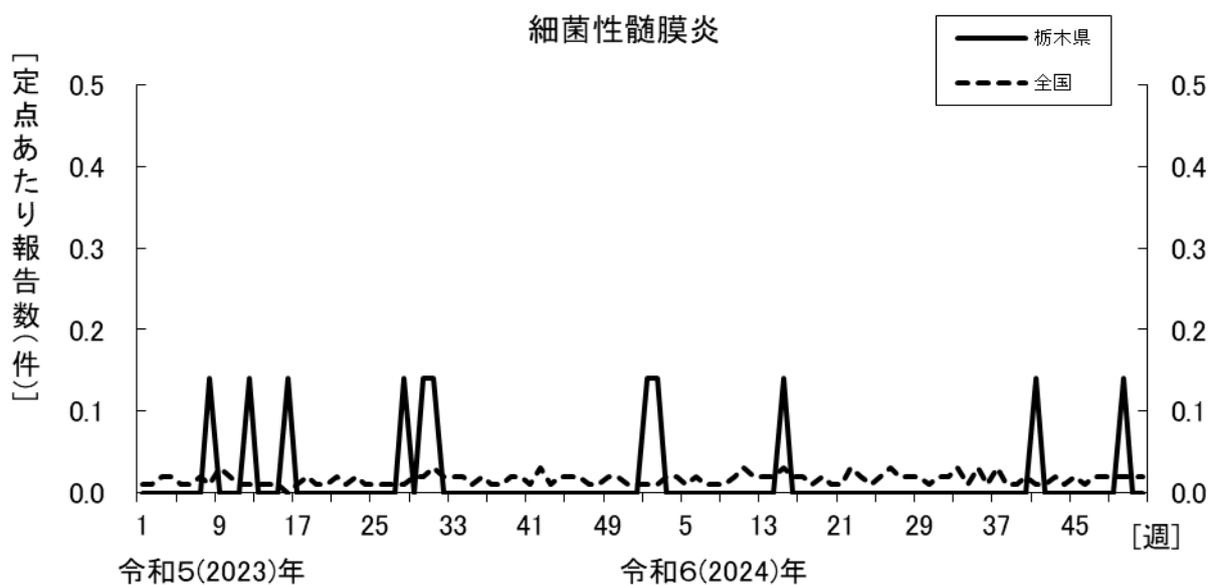
令和6(2024)年の総報告数は5件でした(令和5(2023)年は6件)。

年間の定点あたり報告数は、栃木県 0.70、全国 0.97 で、全国と比較して 0.72 倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

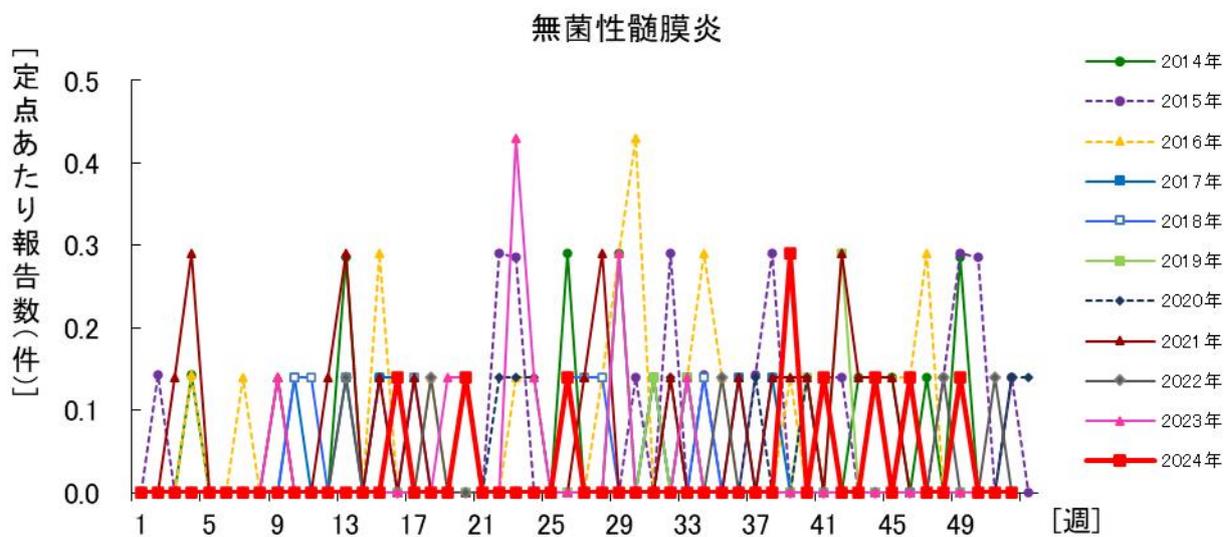


16. 無菌性髄膜炎

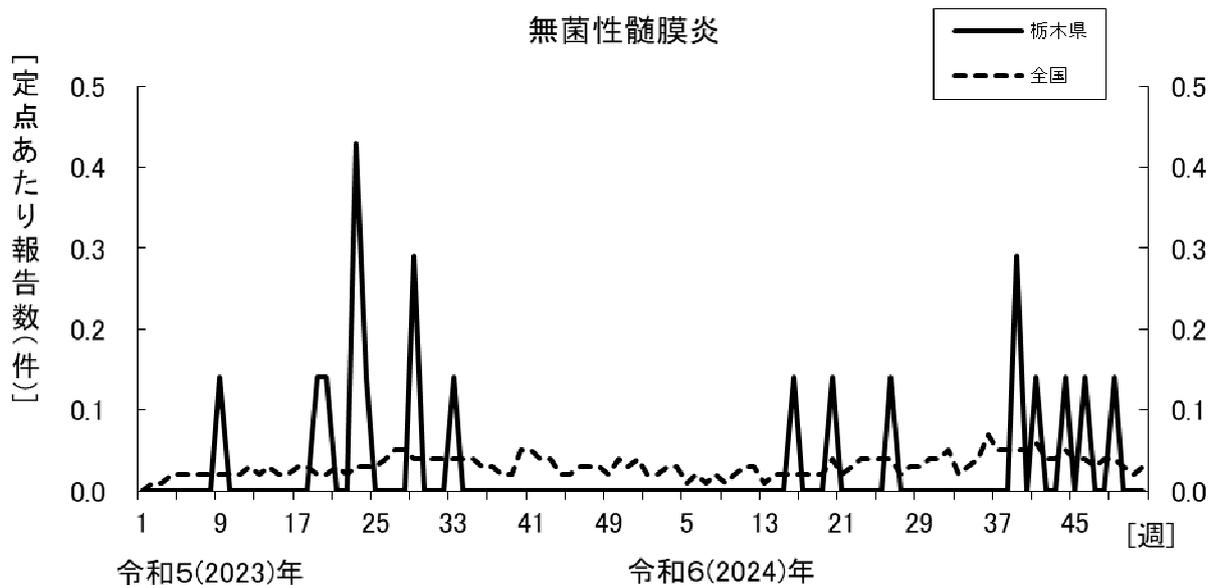
令和6(2024)年の総報告数は9件でした(令和5(2023)年は10件)。

年間の定点あたり報告数は、栃木県 1.27、全国 1.67 で、全国と比較して 0.76 倍とやや低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



17. マイコプラズマ肺炎

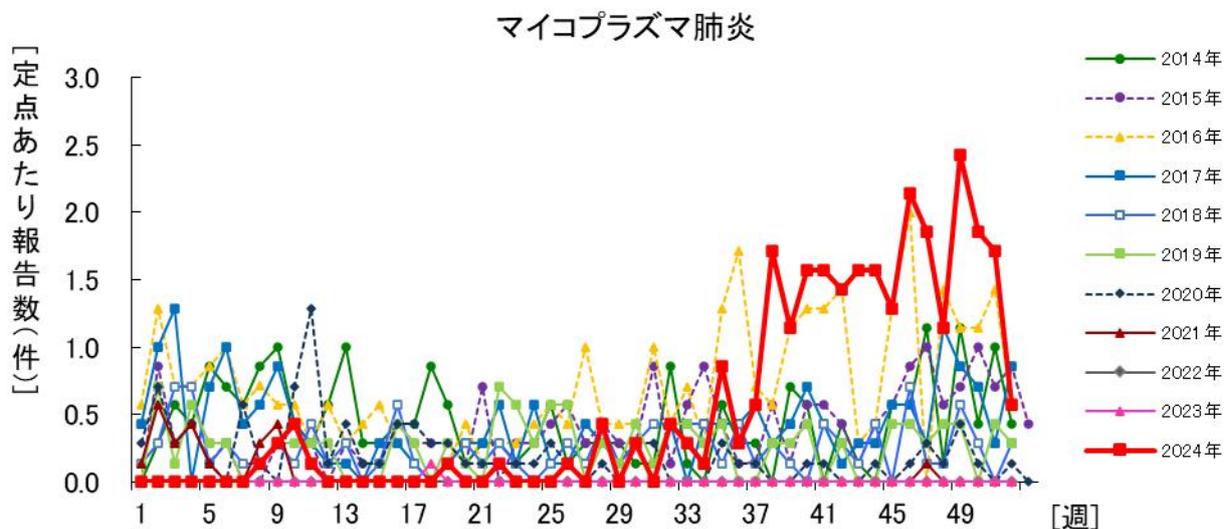
令和6(2024)年の総報告数は198件で、令和5(2023)年(1件)と比較すると198倍と大幅に増加しました。

7月頃から継続して報告が見られるようになり、第49週(12/2~12/8)をピーク(定点あたり報告数2.43)とする報告数の増加が見られました。

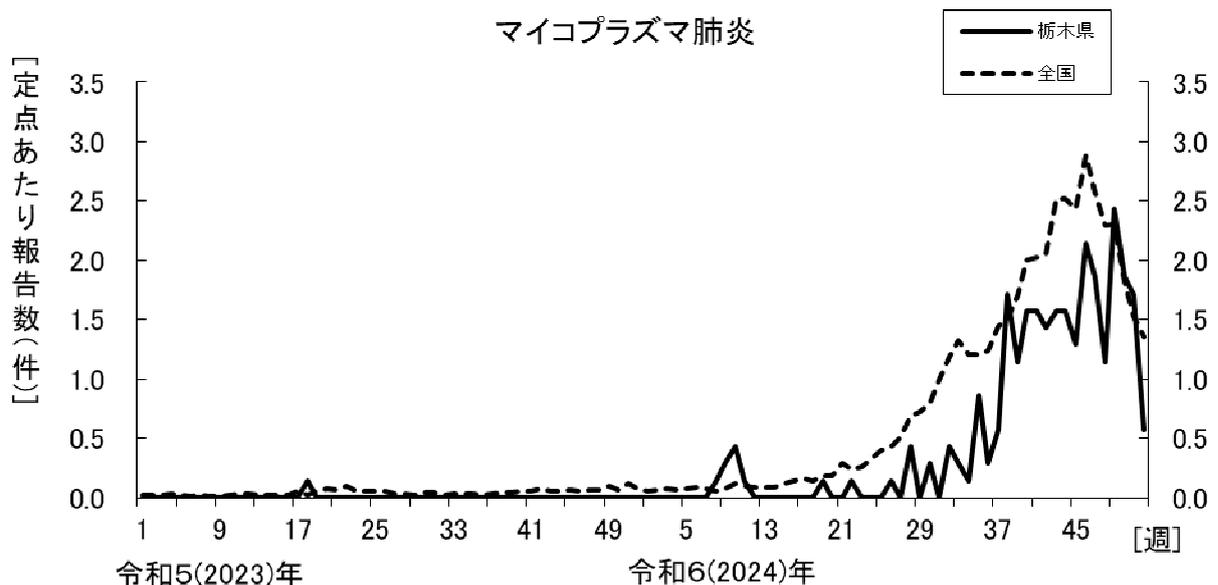
年齢階級別では、14歳以下が83.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数は、栃木県28.28、全国46.83で、全国と比較して0.60倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

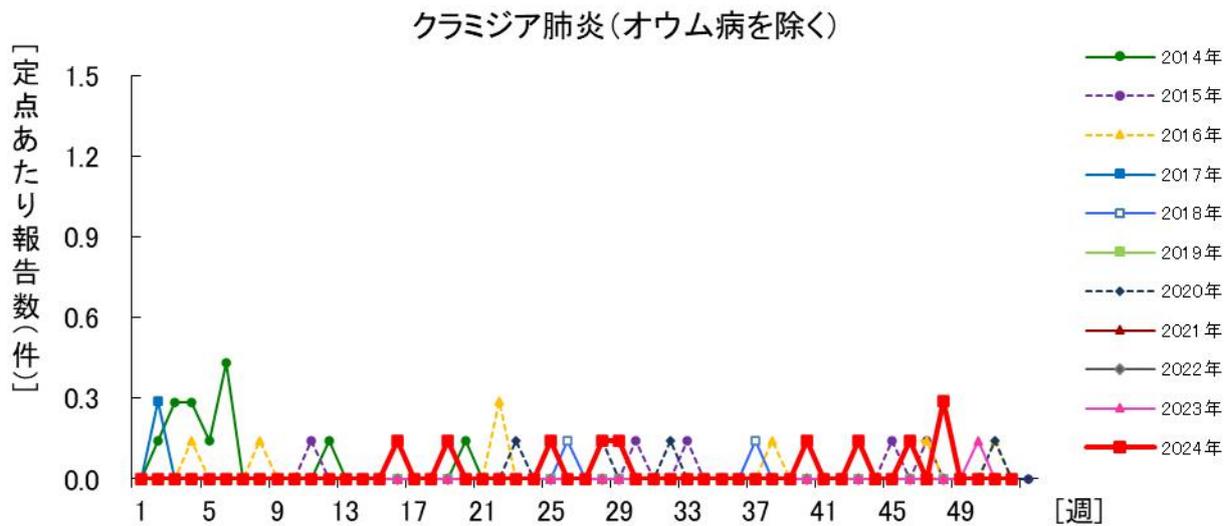


18. クラミジア肺炎（オウム病を除く）

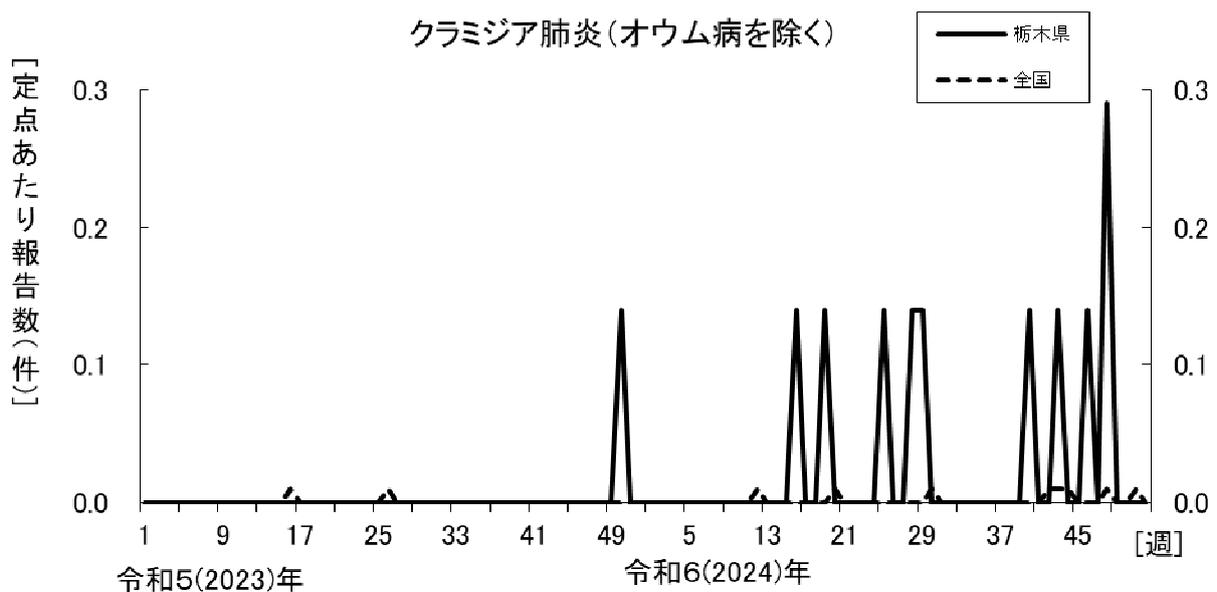
令和6（2024）年の総報告数は10件でした（令和5（2023）年は1件）。

年間の定点あたり報告数は、栃木県1.41、全国0.15でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



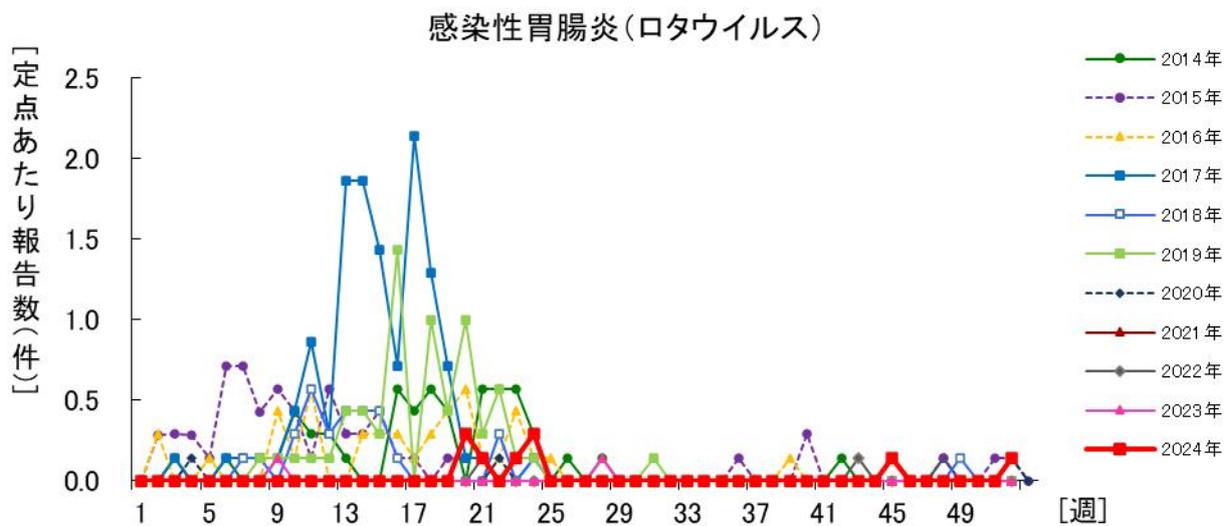
定点あたり報告数の動向（全国との比較）



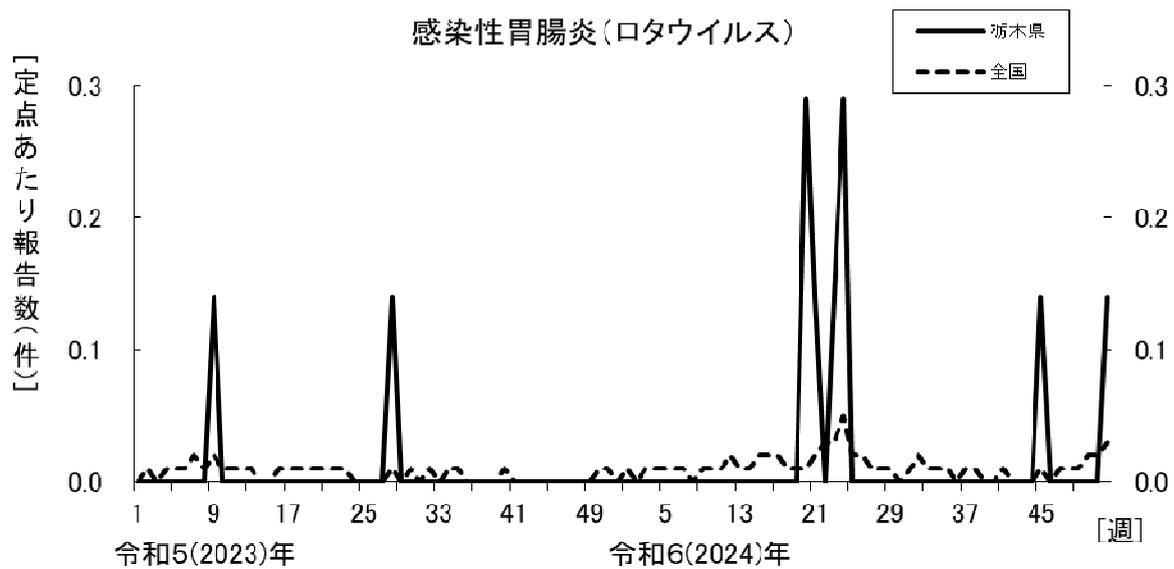
19. 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

令和6（2024）年の総報告数は8件でした。（令和5（2023）年は2件）。
 年間の定点あたり報告数は、栃木県1.14、全国0.66でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



20. インフルエンザ（入院サーベイランス）

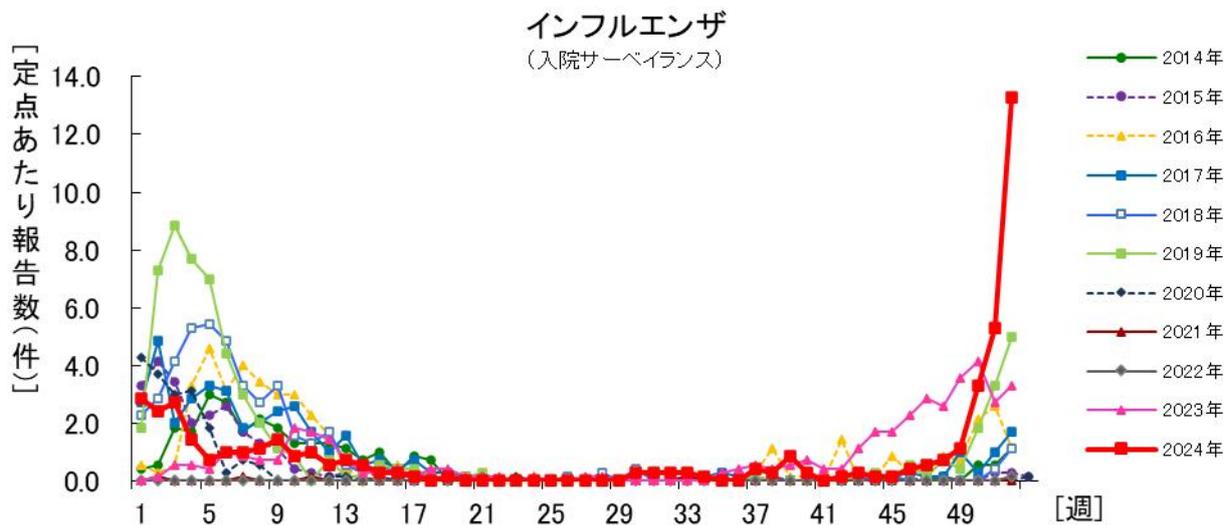
令和 6（2024）年の総報告数は 335 件で、令和 5（2023）年（304 件）と比較すると 1.10 倍とやや増加しました。

第 52 週（12/23～12/29）の報告数が最大（定点あたり 13.29）となりました。

年齢階級別では、0～9 歳が 33.4%を占めました。70 歳以上の割合も多く 4 割近くを占めました（70 歳代 14.3%、80 歳代 17.9%、90 歳以上 6.3%）。

年間の定点あたり報告数は、栃木県 47.86 でした。

定点あたり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



※全国における週ごとの定点あたり報告数の確定データが公表されないため、「定点あたり報告数の動向（全国との比較）」のグラフは掲載いたしません。

21. COVID-19（入院サーベイランス）

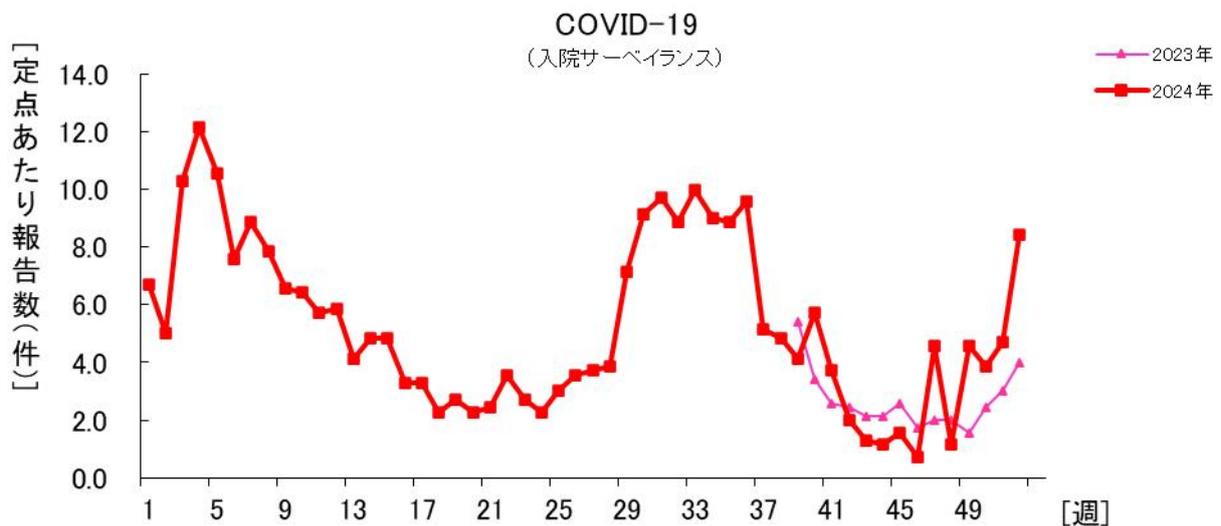
令和6（2024）年の総報告数は1,934件でした。

年間を通して発生が見られ、第4週（1/22～1/28）の報告数が最大（定点あたり12.14）となりました。

年齢階級別では、60歳以上が8割を占めました（60歳代8.1%、70歳代23.1%、80歳代34.3%、90歳以上15.7%）。

年間の定点あたり報告数は、栃木県276.29でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



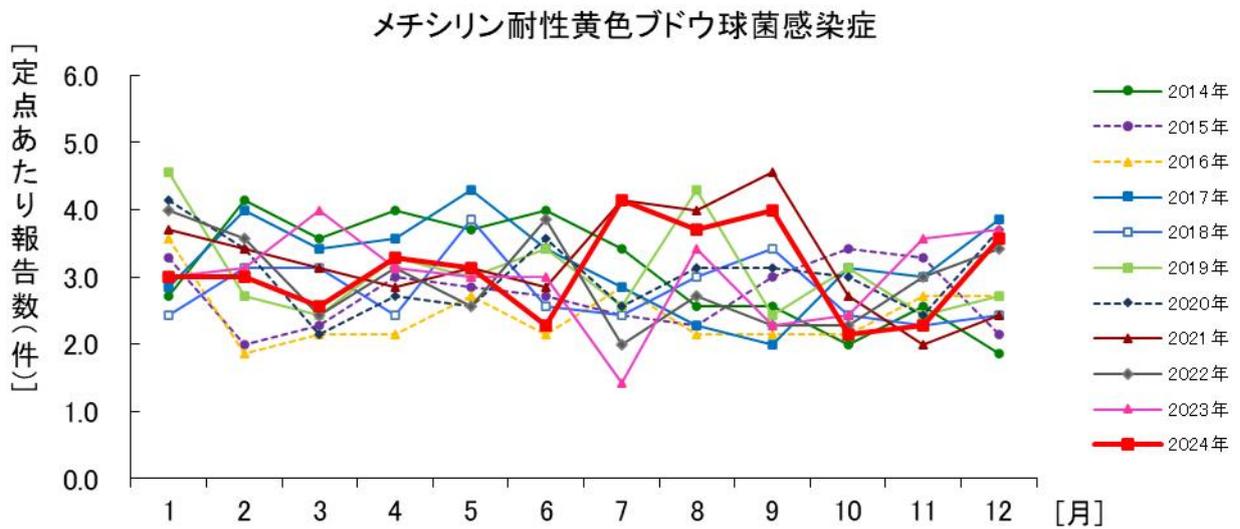
※全国における週ごとの定点あたり報告数の確定データが公表されないため、「定点あたり報告数の動向（全国との比較）」のグラフは掲載いたしません。

22. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

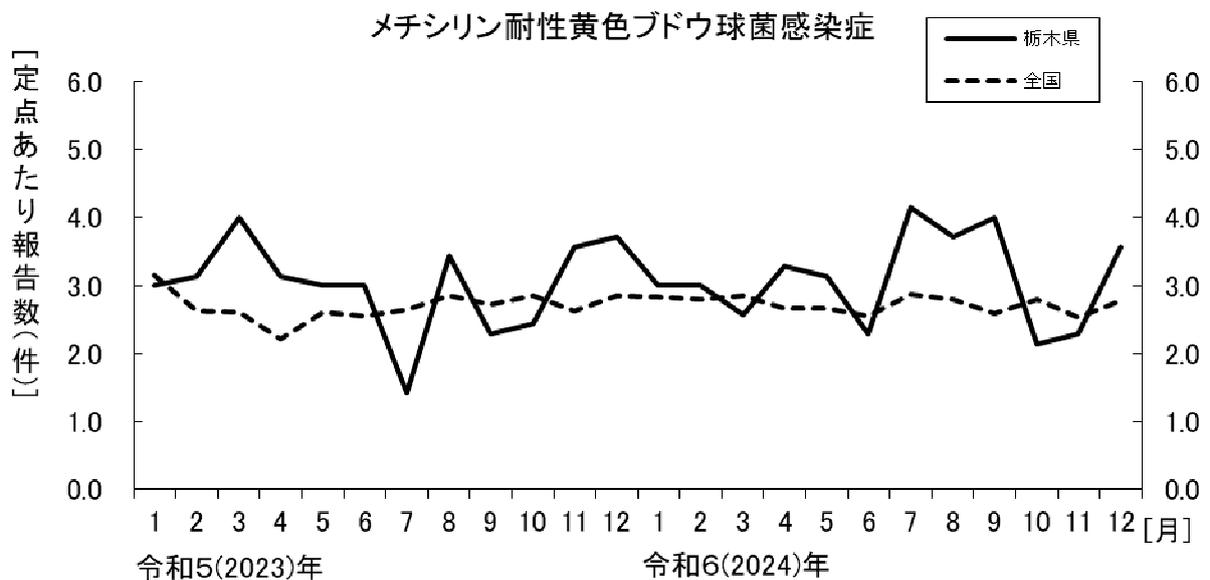
令和6(2024)年の総報告数は260件で、令和5(2023)年(253件)と比較すると1.03倍とほぼ同様の水準でした。

年間を通じて報告があり、年間の定点あたり報告数は、栃木県37.14、全国32.80で、全国と比較して1.13倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

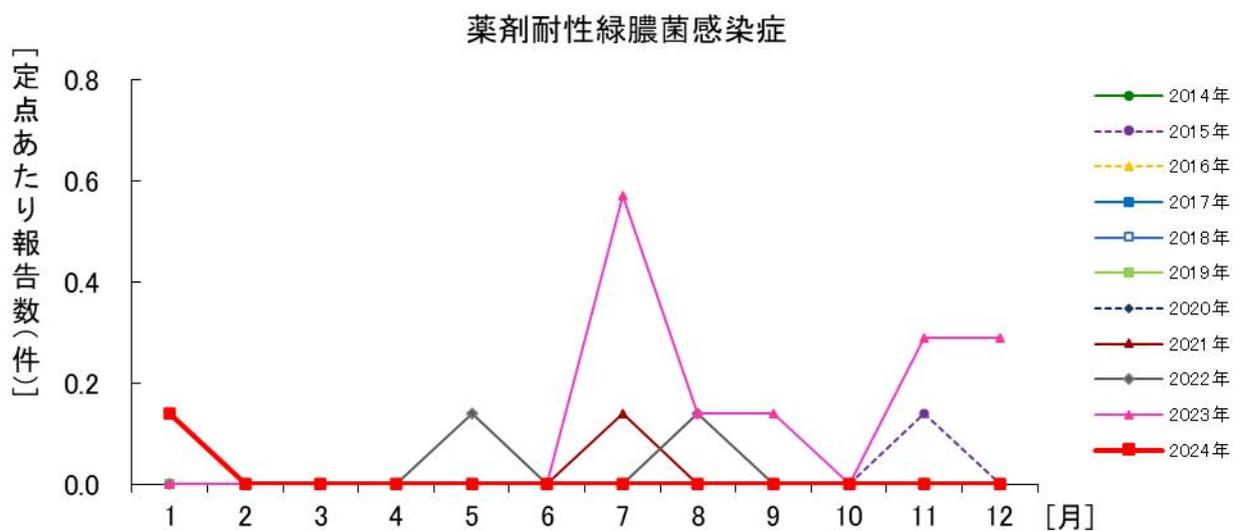


24. 薬剤耐性緑膿菌感染症

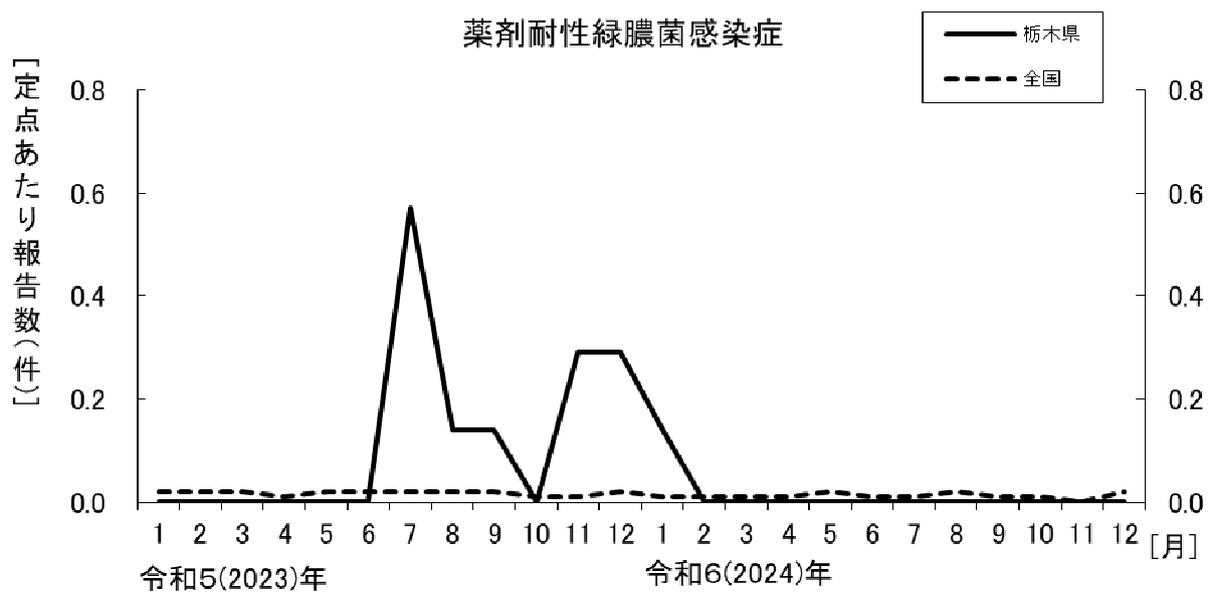
令和6(2024)年の総報告数は1件でした(令和5(2023)年は10件)。

年間の定点あたり報告数は、栃木県0.14、全国0.15でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



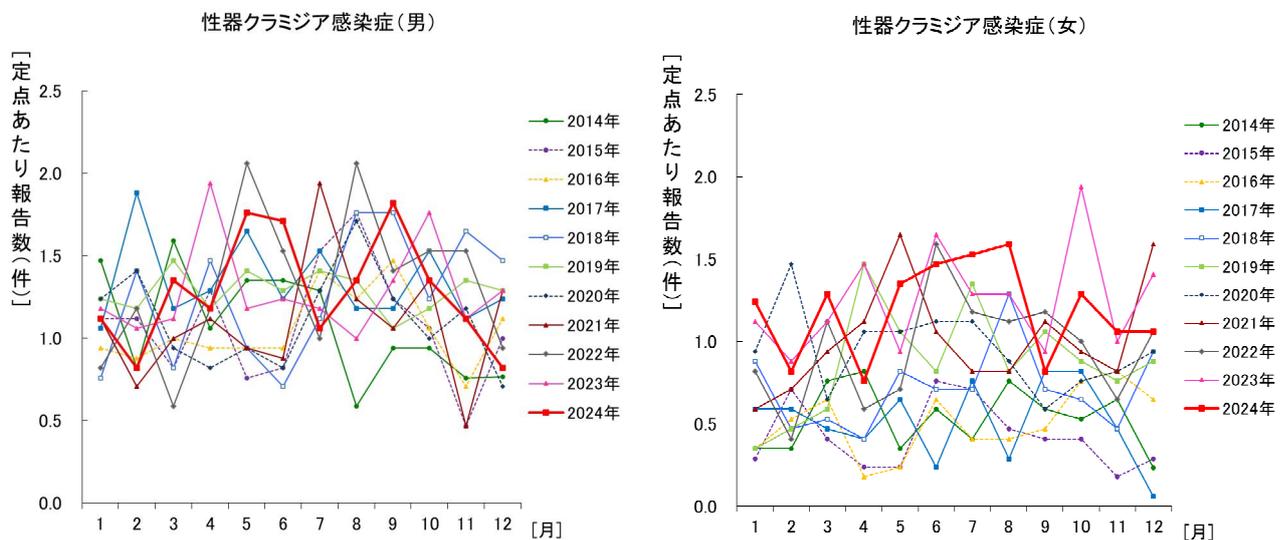
25. 性器クラミジア感染症

令和6(2024)年の総報告数は506件(男263件、女243件)でした。令和5(2023)年の518件(男262件、女256件)と比較すると、男性、女性ともにほぼ同様でした。性別・年齢階級別では、男性では20歳代が42.6%、30歳代が25.5%、40歳代が17.9%、女性では10歳代が16.0%、20歳代が65.8%、30歳代が14.4%でした。

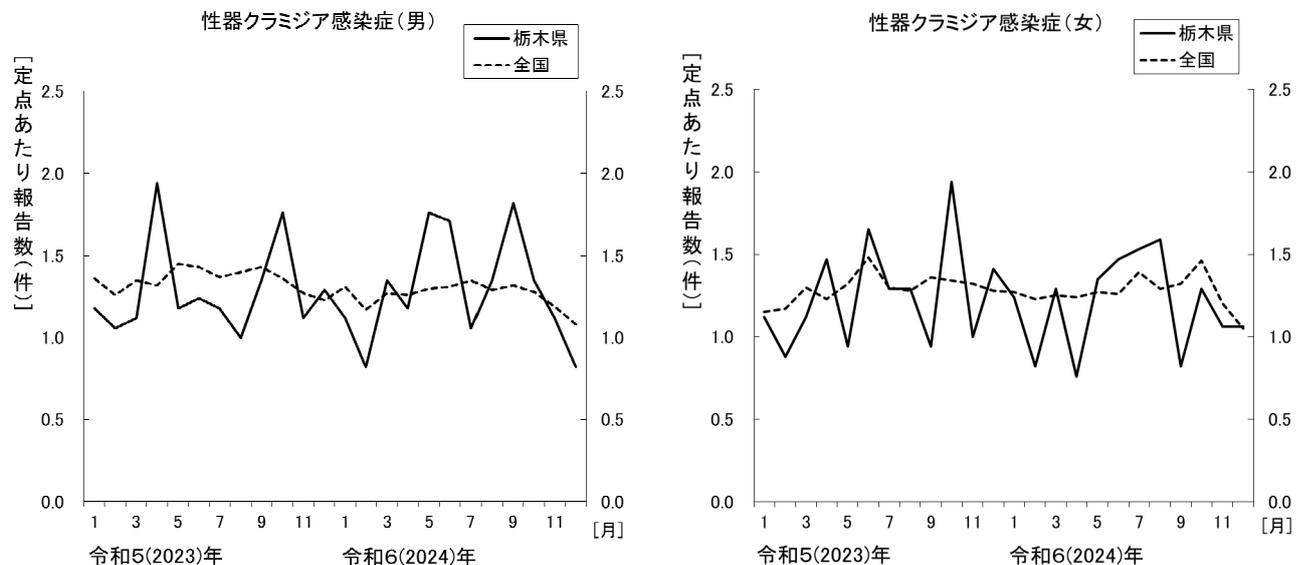
年間の定点あたり報告数は、栃木県29.76、全国30.38で、全国と比較して0.98倍とほぼ同様の水準でした。

男性は栃木県15.47、全国15.14で、全国と比較し1.02倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県14.29、全国15.24で、全国と比較し0.94倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



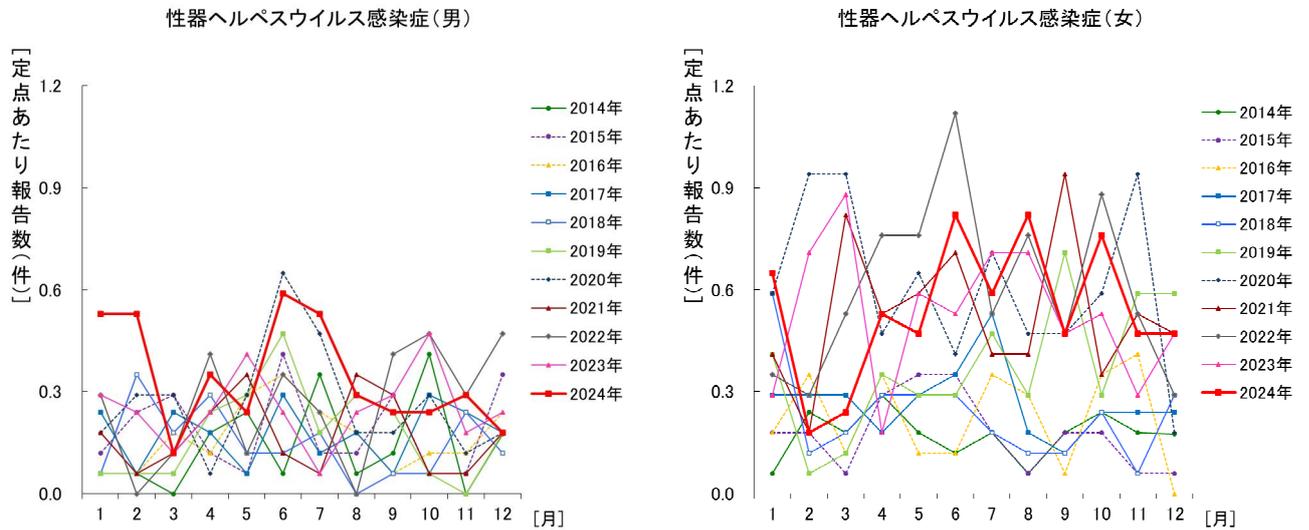
26. 性器ヘルペスウイルス感染症

令和6(2024)年の総報告数は180件(男70件、女110件)でした。令和5(2023)年の159件(男51件、女108件)と比較すると、男性はかなり増加、女性はほぼ同様でした。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が37.1%、女性が30.0%、30歳代は男性が15.7%、女性が26.4%、40歳代は男性が27.1%、女性が25.5%でした。

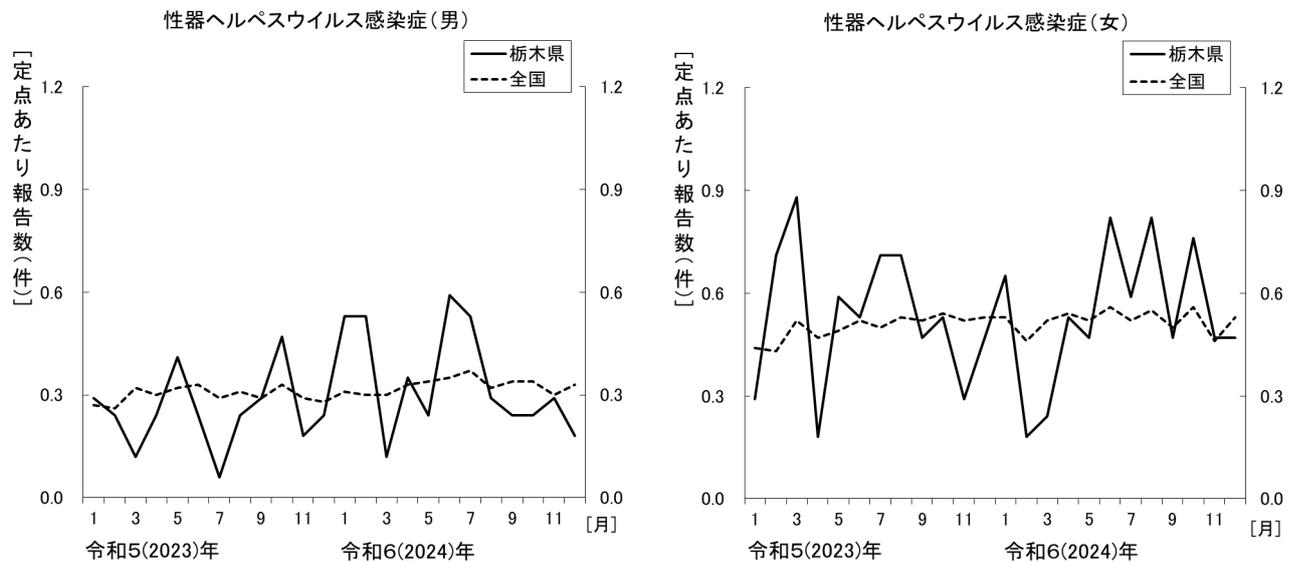
年間の定点あたり報告数は、栃木県10.59、全国10.20で、全国と比較して1.04倍とほぼ同様の水準でした。

男性は栃木県4.12、全国3.94で、全国と比較し1.05倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県6.47、全国6.27で、全国と比較し1.03倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



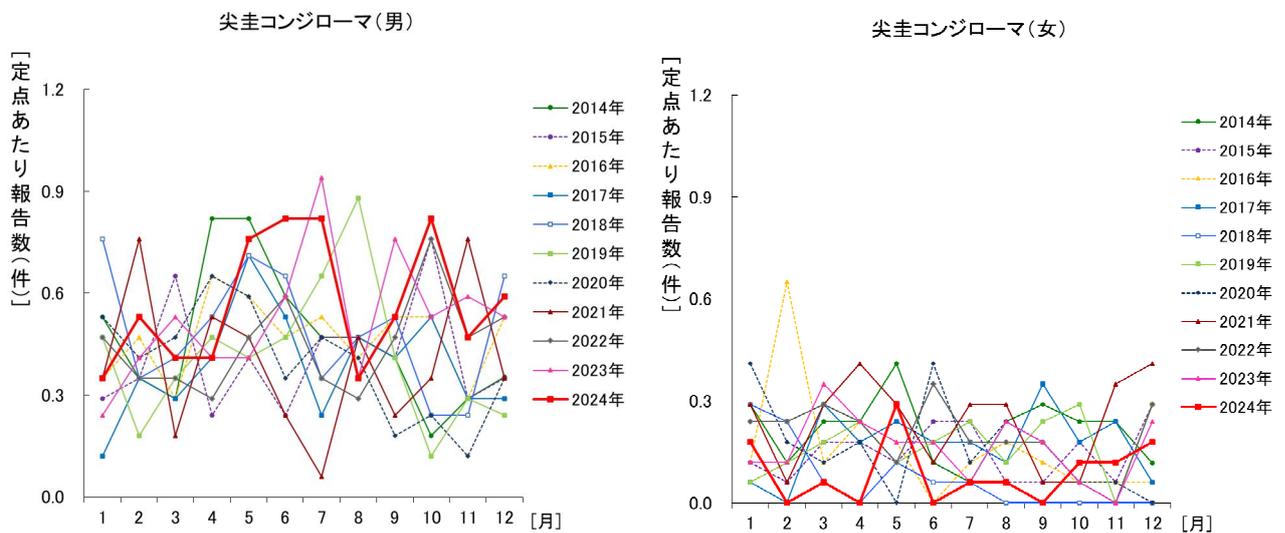
27. 尖圭コンジローマ

令和6(2024)年の総報告数は135件(男117件、女18件)でした。令和5(2023)年の140件(男107件、女33件)と比較すると、男性はほぼ同様、女性はかなり減少しました。性別・年齢階級別では、20歳代は男性が31.6%、女性が77.8%、30歳代は男性が23.1%、女性が16.7%、40歳代は男性が23.1%、女性が5.6%でした。

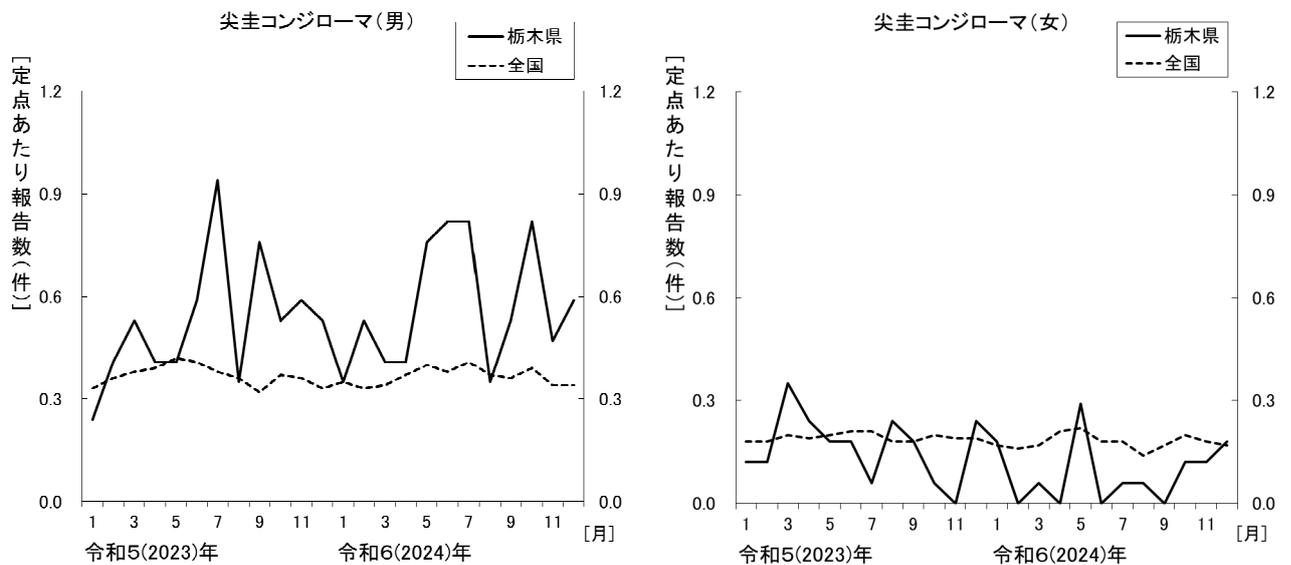
年間の定点あたり報告数は、栃木県7.94、全国6.51で、全国と比較して1.22倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県6.88、全国4.37で、全国と比較し1.57倍と大幅に高い水準、女性は栃木県1.06、全国2.14で、全国と比較し0.49倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



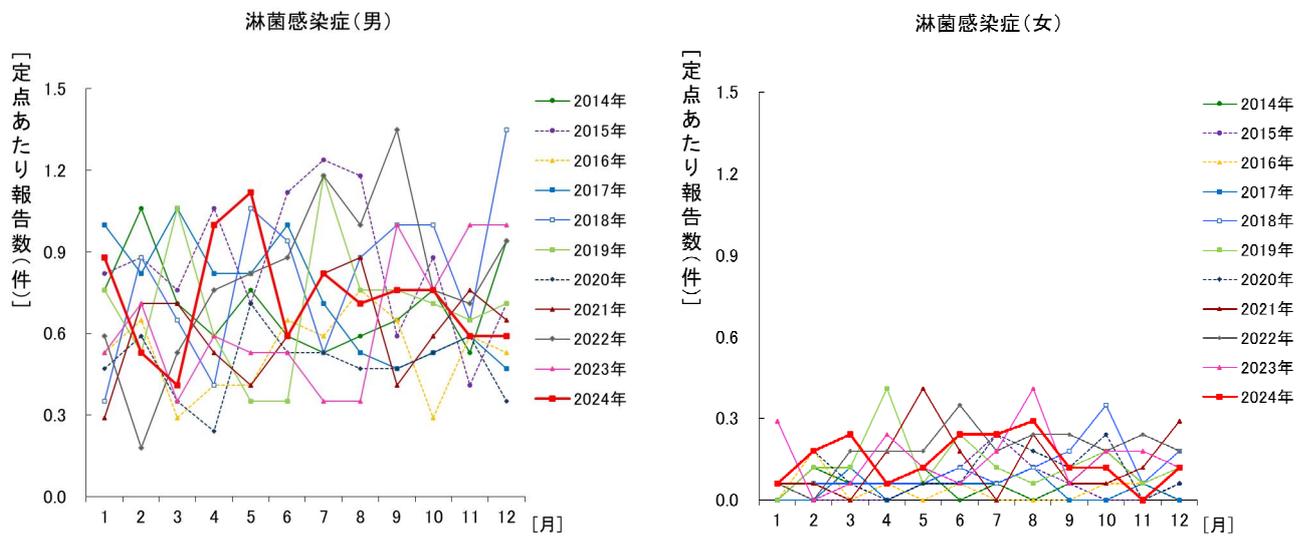
28. 淋菌感染症

令和6(2024)年の総報告数は179件(男149件、女30件)でした。令和5(2023)年の163件(男131件、女32件)と比較すると、男性がやや増加、女性はほぼ同様でした。性別・年齢階級別では、男性では20歳代が37.6%、30歳代が25.5%、40歳代が22.8%、女性では10歳代が16.7%、20歳代が60.0%、30歳代が16.7%でした。

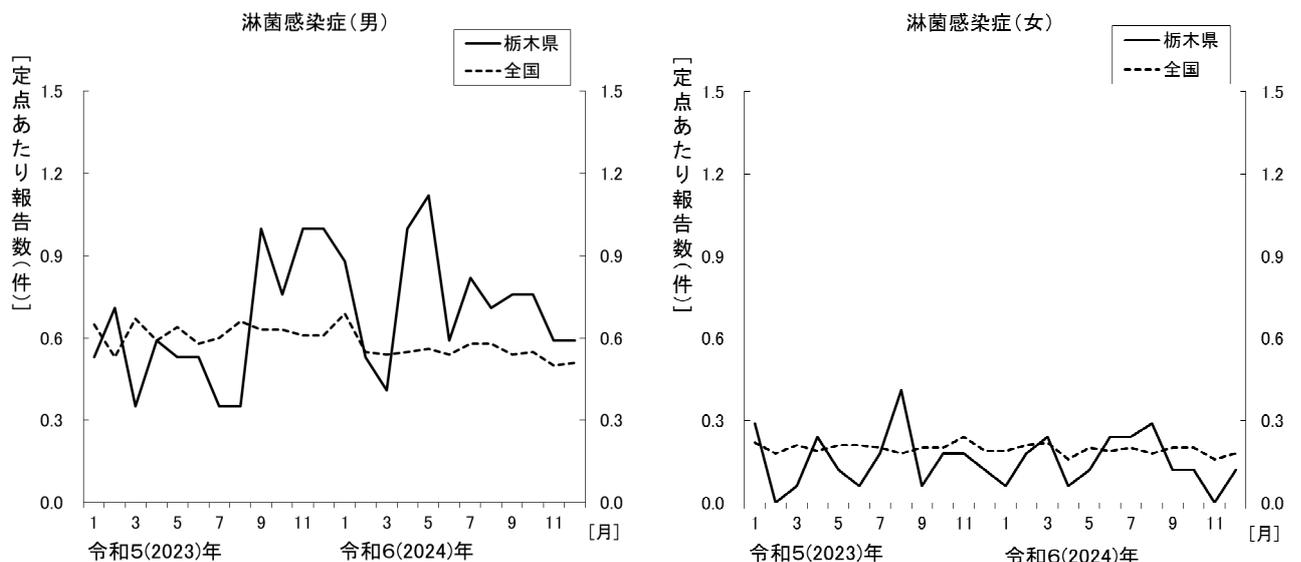
年間の定点あたり報告数は、栃木県10.53、全国8.96で、全国と比較して1.18倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県8.76、全国6.69で、全国と比較して1.31倍とかなり高い水準、女性は栃木県1.76、全国2.27で、全国と比較して0.78倍とやや低い水準でした。

定点あたり報告数の動向 (過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向 (全国との比較)



<主な本文出典>

感染症サーベイランスシステム

- ・全国定点報告数
 - 令和6(2024)年：公開データ（年報）【2025年11月25日現在】
 - 令和5(2023)年：公開データ（年報）【2024年10月26日現在】
- ・栃木県定点報告数（週報）
 - 令和6(2024)年：随時集計（年報）【2025年11月25日現在】
 - 令和5(2023)年：随時集計（年報）【2024年10月30日現在】
- ・栃木県定点報告数（月報）
 - 令和6(2024)年：随時集計（年報）【2025年11月25日現在】
 - 令和5(2023)年：随時集計（年報）【2024年10月30日現在】